

マネジメント研究科 マネジメント研究科 専門職学位課程 (2012年度入学)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■アドバンスト科目	企業の社会的責任と倫理 武田 寛 他	2学期	1	2	1
		1年			
	地域づくり総論 城戸 宏史	1学期	2	2	2
		2年			
	公共経済学 井原 健雄	1学期	1	2	3
		1年			
	マーケティング戦略 丸田 秀一郎 他	2学期	1	2	4
		1年			
	会社法 高橋 衛	1学期	2	2	5
		2年			
	知識マネジメント 越出 均	1学期	1	2	6
		1年			
	管理会計 昆 誠一	2学期	2	2	7
		2年			
	パブリック・マネジメント 永津 美裕	2学期	1	2	8
		1年			
	財務会計 任 章	集中	2	2	9
		2年			
	地域産業 平田 エマ	2学期	1	2	10
	1年				
国際ビジネス・スキル 山口 実	1学期	1	2	11	
	1年				
ロジスティックス 藤村 幸弘	集中	2	2	12	
	2年				
問題解決スキル 平山 克己	1学期	1	2	13	
	1年				
チーム・マネジメント 山口 裕幸	集中	2	2	14	
	2年				
環境ビジネス 松永 裕己	1学期	1	2	15	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■アドバンスト科目	国際経営 晴山 英夫	1学期	1	2	16
		1年			
■エグゼクティブ科目	ベンチャー・ビジネス 越出 均	1学期	1	2	17
		1年			
	戦略的提携と事業創造 林 秀美	1学期	2	2	18
		2年			
	フィナンシャル・インベストメント 武田 寛	1学期	2	2	19
		2年			
	中国ビジネス 高橋 基人	1学期	2	2	20
		2年			
	環境政策 垣迫 裕俊	1学期	2	2	21
		2年			
	医療マネジメント 舟谷 文男	1学期	2	2	22
		2年			
	福祉マネジメント 芳賀 祥泰	1学期	2	2	23
		2年			
	ビジネス中国語 松下 丹紅	2学期	2	2	24
		2年			
自治体政策 吉村 弘	2学期	2	2	25	
	2年				
モノづくり競争力の強化 雨澤 政材	2学期	1	2	26	
	1年				
ソーシャル・ビジネス 関 宣昭 他	2学期	1	2	27	
	1年				
医療経済 舟谷 文男	2学期	1	2	28	
	1年				
社会保障 杉原 好則	2学期	1	2	29	
	1年				
自治体経営 永津 美裕	1学期	2	2	30	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■エグゼクティブ科目	イノベーション・マネジメント 鳥取部 真己	1学期	2	2	31
		2年			
	基礎中国語 王 占華	1学期	1	2	32
		1年			
	産学連携と事業創造 城戸 宏史 他	2学期	2	2	33
		2年			
	ホスピタリティ・マネジメント 小嶋 寿見子	1学期	2	2	34
		2年			
	アジア型経営 王 効平	1学期	1	2	35
		1年			
公的プロジェクト・マネジメント 片山 憲一	1学期	2	2	36	
	2年				
NPO / NGO実践論 奥田 知志	2学期	2	2	37	
	2年				
経営学特講 未定		2	2		
	2年				
■プロジェクト研究科目	グループディスカッションI 王 効平	1学期	1	2	38
		1年			
	グループディスカッションI 鳥取部 真己	1学期	1	2	39
		1年			
	グループディスカッションI 城戸 宏史	1学期	1	2	40
		1年			
	グループディスカッションI 越出 均	1学期	1	2	41
		1年			
グループディスカッションI 高橋 秀直	1学期	1	2	42	
	1年				
グループディスカッションI 武田 寛	1学期	1	2	43	
	1年				
グループディスカッションI 永津 美裕	1学期	1	2	44	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■プロジェクト研究科目	グループディスカッションI 松永 裕己	1学期	1	2	45
		1年			
	グループディスカッションII 王 効平	2学期	1	2	46
		1年			
	グループディスカッションII 鳥取部 真己	2学期	1	2	47
		1年			
	グループディスカッションII 城戸 宏史	2学期	1	2	48
		1年			
	グループディスカッションII 越出 均	2学期	1	2	49
		1年			
	グループディスカッションII 高橋 秀直	2学期	1	2	50
		1年			
	グループディスカッションII 武田 寛	2学期	1	2	51
		1年			
	グループディスカッションII 永津 美裕	2学期	1	2	52
		1年			
グループディスカッションII 任 章	2学期	1	2	53	
	1年				
グループディスカッションII 松永 裕己	2学期	1	2	54	
	1年				
プロジェクト研究I 王 効平	1学期	2	2	55	
	2年				
プロジェクト研究I 林 秀美	1学期	2	2	56	
	2年				
プロジェクト研究I 丸田 秀一郎	1学期	2	2	57	
	2年				
プロジェクト研究I 城戸 宏史	1学期	2	2	58	
	2年				
プロジェクト研究I 越出 均	1学期	2	2	59	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■プロジェクト研究科目	プロジェクト研究I 高橋 秀直	1学期	2	2	60
		2年			
	プロジェクト研究I 武田 寛	1学期	2	2	61
		2年			
	プロジェクト研究I 永津 美裕	1学期	2	2	62
		2年			
	プロジェクト研究I 松永 裕己	1学期	2	2	63
		2年			
	プロジェクト研究II 王 効平	2学期	2	2	64
		2年			
	プロジェクト研究II 林 秀美	2学期	2	2	65
		2年			
	プロジェクト研究II 丸田 秀一郎	2学期	2	2	66
		2年			
	プロジェクト研究II 城戸 宏史	2学期	2	2	67
		2年			
プロジェクト研究II 越出 均	2学期	2	2	68	
	2年				
プロジェクト研究II 高橋 秀直	2学期	2	2	69	
	2年				
プロジェクト研究II 武田 寛	2学期	2	2	70	
	2年				
プロジェクト研究II 永津 美裕	2学期	2	2	71	
	2年				
プロジェクト研究II 任 章	2学期	2	2	72	
	2年				
プロジェクト研究II 松永 裕己	2学期	2	2	73	
	2年				
■ベーシック科目	マネジメント総論 齋藤 貞之	1学期	1	2	74
		1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■ベーシック科目	経営戦略	1学期	1	2	75
	高橋 秀直	1年			
	マーケティング	1学期	1	2	76
	米谷 雅之	1年			
	アカウンティング	2学期	1	2	77
	任 章	1年			
	ファイナンス	2学期	1	2	78
	内田 交謹	1年			
	人材マネジメント	2学期	1	2	79
	福井 直人	1年			
	組織とリーダーシップ	2学期	1	2	80
	鳥取部 真己	1年			

企業の社会的責任と倫理【夜】

担当者名 /Instructor 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程, 広瀬 隆明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前半(①~⑥)は、企業の社会的責任(以下CSR)と倫理について、基礎的な知識のほか、企業が社会的責任を果たす上での具体的な実践方法、社会的責任報告書(CSR報告書)を題材にした事例研究や企業の実務者による解説、会社法や金融商品取引法における内部統制に関する規定との関連等を扱う。

後半(⑦~⑯)は、日本の経営思想と、経営品質の向上について学ぶ。まず、江戸時代から現代までの日本の経営思想を概観し、代表的経営者の経営思想を学ぶ。次に、経営品質の向上について、企業の目的と利益について考察し、経営品質の向上に関する経営実践例などについて学ぶ。

教科書 /Textbooks

前半は、各回レジュメを配布する。

後半は、授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『CSR入門講座』1~5巻(2005年)日本規格協会
 白鳥・荻原(2005年)『CSRが良くわかる本』秀和システム
 岡本享二(2005年)『CSR入門』日経文庫
 環境管理システム研究会(2008年)『中小企業の社会的責任経営』西日本新聞社
 邦訳(2011年)『ISO26000(社会的責任に関する手引)』日本規格協会
 梅津光弘(2008年)『ビジネスの倫理学』丸善
 渋沢栄一(2010年)『現代語訳 経営論語』ダイヤモンド社
 稲盛和夫(2007年)『[新装版] 成功への情熱』PHP研究所 ほか

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 企業の社会的責任(CSR)とは何か、なぜ今CSRなのか
 【持続可能性】【トリプルボトムライン】【コンプライアンス】【コーポレート・ガバナンス】【ステイクホルダー】
- ② 各国におけるCSRの普及とCSRに関する基準・規格・ガイドライン【GRI】【ISO】【企業行動憲章】
- ③ CSR報告書(1) 国内企業のCSRへの取組みを考える
- ④⑤ CSR報告書(2) 学生による事例発表
- ⑥ 企業のCSR責任者による実務における取組みの紹介
- ⑦ 環境会計、CSR会計【環境保全コスト】【環境保全効果】【環境保全対策】
- ⑧ 社会的責任投資(SRI)【スクリーニング】【株主行動】【コミュニティ投資】
- ⑨ 日本の経営思想(1)【倫理】【経営思想】【賤商意識】【実業】【渋沢栄一】【福沢諭吉】【国家意識・道義精神】【合理主義】
- ⑩ 日本の経営思想(2)【読書人的エリート】【徳治主義】【特殊な社会観】【会社主義】【松下幸之助】
- ⑪ 日本の経営思想(3)【松下幸之助】【企業の社会的責任】【ダム経営】【適正経営】【経営は生きた総合芸術】【経営指導致料】
- ⑫ 日本の経営思想(4)【稲盛和夫】【京セラフィロソフィ】【アメーバ経営】【AVX社】【JAL】
- ⑬ 総合：経営品質の向上(1) 企業の目的と利益 【企業の目的】【株主利益の最大化】
- ⑭ 総合：経営品質の向上(2) 同上 【ピーター・ドラッカー】【スマントラ・ゴシャール】【加護野忠男】
- ⑮ 総合：経営品質の向上(3)【戦略的CSR】【マルコム・ポルドリッジ賞】【日本経営品質賞】【タタ財閥】

成績評価の方法 /Assessment Method

前半(①~⑥)50%、後半(⑦~⑯)50%を合算して評価する。

前半は、授業への参加姿勢(15%)、発表・ディスカッション(20%)、課題レポートの内容(15%)などをもとに総合的に判断する。

後半は、クラスへの貢献度(15%)と課題の評価(35%)の合計である。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要に応じて連絡します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

企業の社会的責任と倫理 【夜】

キーワード /Keywords

地域づくり総論【夜】

担当者名
/Instructor

城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 2年次
/Year単位 2単位
/Credits学期 1学期
/Semester授業形態 講義
/Class Formatクラス 2年
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
											○

授業の概要 /Course Description

わが国は既に人口減社会に突入しており、経済活力の低下が深刻化しつつある。とりわけ、地方における経済活力の低下は極めて深刻な状況となっている。そのため、これまで以上に地域づくりや地域産業振興への関心が高まっている。しかしながら、従来の行政中心の手法には限界があり、行政の枠を超えたマネジメントのもとでの地域づくりや地域産業振興が求められている。

そこで本講義では、行政の枠を超えた地域づくりのケーススタディや地域づくりのリーダーとのディスカッションにより、様々な担い手によって実行される地域づくりに必要な戦略やマネジメント、とりわけ「コラボレーション」のあり方について学ぶ。また同時に、今後の地域における「すでに起こった未来」について、可能な範囲で統計分析やフィールドワークを通して展望し、具体的な地域づくりの方向性を議論する。なお、本講義は2コマ連続の隔週開講とする。

教科書 /Textbooks

その都度、指示します（基本はプリント配布）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 塩沢由典・小長谷一之「まちづくりと創造都市 - 基礎と応用 - 」晃洋書房
- P.F.ドラッカー「非営利組織の経営」ダイヤモンド社
- P.F.ドラッカー「イノベーションと企業家精神」ダイヤモンド社
- 広井良典「コミュニティを問いなおす」ちくま新書
- 稲葉陽二「ソーシャル・キャピタル入門」中公新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①、②地域を景観とデータから読み取る
【地域の現状認識の確認：高齢化・都心空洞化・人口減少、消費低迷、下流化】
【ディスカッション：10年後の地域のかたち、すでに起こった未来】
- ③、④地域資源とソーシャル・キャピタル
【人的ネットワーク、コラボレーション、リーダーシップ、外部マネジメント】
【ディスカッション：地域づくりのために誰とつながるべきか？】
- ⑤、⑥地域づくりのケーススタディ1
【福岡県みのう地域：農村、農業、ツーリズム、自然、芸術】
- ⑦、⑧地域づくりのケーススタディ2
【中心市街地の活性化：黒崎地区の実態（商店街、再開発、再都市化、買物弱者、交通手段）】
【ディスカッション：黒崎地区の真の地域資源とは？】
- ⑨、⑩成熟時代の市街地再開発を考える（八幡地区を事例に）
【市街地再開発、再開発組合、都市計画、コミュニティ、合意形成】
【ディスカッション：どのように地域で合意形成すれば良いのか？】
- ⑪、⑫地域づくりにおけるリーダーの資質と今後の地域マーケティング
【ディスカッション：地域づくりにおけるリーダーとは？】
【リーダーシップ、権限、行政とのコラボ、住民とのコラボ、民間企業とのコラボ、NPOの可能性】
- ⑬、⑭グローバル時代におけるケアの重要性と地域マーケティング
【コミュニティ、ソーシャル・ビジネス、ケアビジネス、地域マーケティング、ユーザーの二重性】
【ディスカッション：求められるケアビジネスとは？】
- ⑮地域づくりプロジェクトの提案
【どんな地域課題に対して、どんな地域資源を生かして、誰とつながるのか？】

成績評価の方法 /Assessment Method

地域づくりプロジェクトの提案レポート（70%）、ディスカッションに対する貢献度（30%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テーマは地域づくりですが、マーケティングや組織論、リーダーシップ論の基礎的知識を前提に講義を進めます。よって、マネジメント研究科のベーシック科目はしっかり習得しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

地域づくり総論【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ビジネススクールならではの知見を応用しつつ、地域づくりを多角的に捉えて、具体的な案件をとりあげて議論を深めたいと思います。

キーワード /Keywords

コラボレーション、すでに起こった未来、コミュニティ、NPO、ケア、少子高齢化、市街地活性化、地域マーケティング

公共経済学【夜】

担当者名 /Instructor 井原 健雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

昨今、「道路整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」に基づき、高速道路会社および機構により「高速道路料金の引き下げ計画」が策定され、その具体的な実施が全国各地で展開され、さまざまな問題が顕在化している。本講義では、このような状況に配慮して「高速道路料金の大幅値下げに伴う影響」などを考察し、その「説明責任」(Accountability)を誰がどのように果たすべきかについての正しい理解と認識を深めることを目的とする。換言すれば、本講義では、公共部門の多様な諸政策を経済学的な観点から捉えることにより、公共政策の形成に活用できる経済学的思考の養成を図るものである。したがって、公共政策を評価するための「費用便益分析」(Cost-Benefit Analysis)の基礎的理解の深化を図るとともに、その有効範囲と限界についても正しく理解できる能力の向上を意図するものである。

教科書 /Textbooks

井堀利宏(2004)『基礎コース 公共経済学』新世社
 山内弘隆・上山信一編(2003)『パブリック・セクターの経済・経営学』NTT出版

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ステイグリッツ(2003)『公共経済学第2版 上巻』東洋経済新報社
 中村英夫編(1997)『道路投資の社会経済評価』東洋経済新報社、ほか。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① プロローグ(政策と費用便益分析)
【政策、費用便益分析の目的、役割、歴史】
- ② 費用便益分析の基礎1
【費用便益分析のミクロ経済学】
- ③ 費用便益分析の基礎2
【費用、便益の評価、割引現在価値】
- ④ 費用便益分析の基礎3
【社会的割引率、純便益法、費用便益比率法】
- ⑤ 政策評価事例研究1
【道路整備事業の評価、利用者便益】
- ⑥ リスク・不確実性
【リスク・プレミアム、リスク評価】
- ⑦ 政策評価事例研究2
【空港事業の評価、港湾事業の評価】
- ⑧ チームプロジェクト1
【ガイダンス、政策分析の設計】
- ⑨ 仮想評価法(CVM)と旅行費用法(TCM)
【使用価値と存在価値、仮想評価法、旅行費用】
- ⑩ 政策事例研究3
【ごみ減量政策の評価】
- ⑪ チームプロジェクト2
【政策分析対象の政策、評価法の経過報告】
- ⑫ 費用効果分析
【抱絡分析法】
- ⑬ 政策事例研究4
【PFI、市場化テスト】
- ⑭ 費用便益分析の有効範囲と限界
【効率性と公平性、政策評価の客観性】
- ⑮ チームプロジェクト発表
【政策評価のプレゼンテーション、ディスカッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(20%)、期末試験(50%)、課題に対するレポート・プレゼンテーション(20%)、授業に対する参加度(10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

公共経済学 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マーケティング戦略【夜】

担当者名 /Instructor 九田 秀一郎 / マネジメント研究科 専門職学位課程, 平野 健二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

バブル崩壊時から急激に変化してきた熾烈な企業の考え方に注目し、具体的例を参考に、これから企業が生き延びる為の、経営戦略としてのマーケティングの仕組みを分析・研究する。顧客に接している営業関係者向けのマーケティング(5~9)と企業内部の経営者・技術者・製造担当者向けのマーケティング(1~4、11~15)の、双方の職責に向けて理論と実践を学習する。企業で行われている社内教育の例をモチーフに実践型の応用例の紹介や演習等を行う。資料は実企業で用いられている社内教育用に編纂された資料を活用。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布。電子データの場合USB等電子媒体の準備が望ましい。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

NE日経エレクトロニクス、日本経済新聞、日経Automotive Technology等業界専門誌。日本能率協会[技術マーケティング]等。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 導入編：産業界構造と企業が求める人材等、基本項目のレビュー
企業教育の基礎、商材分類、アプリケーション、企業体内時計等
2. 最近の市場動向とアンゾフの成長ベクトルについて
商材の分化・肥大化に伴う不振、時間のドリフト、アンゾフの成長ベクトル、例
3. 経営戦略とマーケティング
基本4戦略と統合市場戦略、市場ライフサイクル、ドメインの定義、キャズム
4. 需要戦略
需要戦略の骨子、プロセスフローシート、4Pの位置づけ、Push-Pull戦略
5. One to Oneマーケティングの必然(lecture)
①社会環境の変化(マスマーケティングの機能不全、コモディティからパーソナルへ)
②同質競争の激化(商圏の狭小化、市場創出の必要性)
6. 価値の発見・定義(discussion)
①価値の本質、②価値の発見、③価値の定義、④価値と価格
7. 価値の伝達(presentation)
学生によるプレゼンテーション「各自が定めた商品の価値を伝える」
8. 顧客の発見・創造(discussion)顧客のプロファイリング
デモグラフィック、購買行動(顧客ID-POSの実例)、定性分析
9. 価値伝達ツールの活用(discussion)
①学生によるプレゼン~メディアの特性分析
②メディア特性の確認
③AIDMAとメディア特性
10. プレゼンテーション[価値伝達と評価]
11. 競争戦略
SBUの定義、相対的経営資源、競争地位の定義、戦略定石、シェア争奪戦
12. ランチェスターの法則
基本法則、クープマンの目標値、射程距離理論、弱者強者の戦い
13. コスト戦略(製造と販売)
販売コスト、製造コスト、マネーフロー、おまけ論、付加価値の定量化
14. マーケティングに必要な補足事項
①海外戦略の基本(三段階の海外対応戦略について理解)
②企業活動に於ける分析手法(6σ手法の考え方)
15. 特別企画(ミニゼミや特別講師招聘等を行う)

成績評価の方法 /Assessment Method

課題に対するレポート(50%)、プレゼンテーション(20%)、ディスカッションに対する貢献度(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

マーケティング戦略【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会社法 【夜】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
												○

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。この講義では、会社のうち株式会社を中心に、会社のガバナンスやファイナンス・M&A等に関する法制度を説明します。

教科書 /Textbooks

初回の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①オリエンテーション
- ②株式会社の基本構造(1)【法人性】【株式】【株主の有限責任】
- ③株式会社の基本構造(2)【所有と経営の分離】
- ④株式会社の設立【定款】【登記】
- ⑤株式会社のガバナンス(1)【株主の権利】【株主総会】
- ⑥株式会社のガバナンス(2)【(代表)取締役】【取締役会】
- ⑦株式会社のガバナンス(3)【監査役】【会計監査人】【委員会設置会社】
- ⑧取締役等の義務と責任(1)【善管注意義務と忠実義務】【会社に対する責任】
- ⑨取締役等の義務と責任(2)【株主代表訴訟】【第三者に対する責任】
- ⑩株式会社の資金調達(1)【株式の発行】【授権資本制度】
- ⑪株式会社の資金調達(2)【株式発行の瑕疵】【主要目的ルール】
- ⑫株式会社の資金調達(3)【新株予約権】
- ⑬株式会社の組織再編(1)【合併】【事業譲渡】【会社分割】
- ⑭株式会社の組織再編(2)【株式交換】【株式移転】
- ⑮非上場化取引【少数株主の縮出し】【全部取得条項付株式】

成績評価の方法 /Assessment Method

平素のクラスへの貢献度...50%、レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

知識マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 越出 均 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は知識の共有・活用を組織的に展開するナレッジマネジメントと共に、知識をイノベーションの源泉とする知識創造について検討を加え、知識社会の経営、管理について習得することを目指す。有益な知識を提供し合い、相互に活用することで知識生産性の向上を志向するマネジメントを検討しながら、他方ではイノベーションに必要な新しい知識の創造についても取り上げ、新規事業やビジネスモデルの創出、製品・技術の開発などに不可欠な「場」の議論、ワークスタイルの分析・設計などを通して知識経営の実践力を高め、知識社会のリーダー像を明らかにする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

越出均『ナレッジ・クリエイター』、創成社
 國領・野中・片岡『ネットワーク社会の知識経営』、NTT出版
 野中・竹内『知識創造企業』、東洋経済新報社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 知識社会の到来
【収穫逓増のプラットフォーム】
- ② 知識ネットワーク
【企業の実践コミュニティ】
- ③ 知識経営の基礎
【知識マネジメントの要諦】
- ④ 知識創造経営
【SECIモデル】
- ⑤ 知識経営の実際
【ゲストに学ぶ知識経営】
- ⑥ 知識イノベーション
【異なる知のマネジメント】
- ⑦ 知のコラボレーション
【顧客とのリレーションシップと価値創出】
- ⑧ 失敗の「知」
【体験的学習の生かし方】
- ⑨ 「知」の伝承
【場の共有化と技能習得】
- ⑩ 「知」のデジタル化
【技術思考による業務改革】
- ⑪ 営業のナレッジ共有とスキルアップ
【可視化のマネジメント】
- ⑫ 知識社会のリーダーシップ
【CKOの役割】
- ⑬ 専門的知識
【デザイナーと開発者のマネジメント】
- ⑭ 地域の「知」をマネジメントする
【商店街・地場産業の集積知、知的触発】
- ⑮ 自社における知識ビジネスと知識経営についての考察、発表

成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッションに対する貢献度(2割)と課題に対するレポート評価(8割)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

知識マネジメント 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

管理会計【夜】

担当者名 /Instructor 昆 誠一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
												○

授業の概要 /Course Description

管理会計は、企業の経営管理者の意思決定に有用な情報を提供する会計情報システムである。本講座では、まず、伝統的な管理会計の領域である業績管理会計および意思決定会計における理論と技法について基礎的知識を習得してもらう。その上で、管理会計の新しい領域である戦略的管理会計における理論と技法について学ぶことにより管理会計全般に関する知識・理解を深めていく。なお、各演習では受講者に事例発表をしてもらうので、受講に際しては積極的な姿勢を期待したい。

教科書 /Textbooks

岡本・尾畑・廣本・挽著『管理会計(第2版)』中央経済社 ¥3,200

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

加登・李著『ケースブック・コストマネジメント』新世社 ¥2,450
櫻井通晴著『管理会計(第4版)』同文館出版 ¥4,800
山本・小倉・尾畑・小菅・中村編著『スタンダードテキスト管理会計論』中央経済社 ¥5,000

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①オリエンテーション：本講座の領域と目的、成績評価の方法について
【予備知識】【管理会計の位置づけ】
 - ②管理会計の概説：管理会計の体系について
【業績管理会計】【意思決定会計】【戦略的管理会計】
 - ③業績管理会計1：短期利益計画とCVP分析について
【変動費】【固定費】【損益分岐点】【目標達成点】【感度分析】
 - ④業績管理会計2：予算管理システムについて
【予算編成】【予算統制】【予算管理の人間の側面】
 - ⑤業績管理会計3：事業部制会計について
【管理可能性】【追跡可能性】【振替価格】【ROI】【RI】
 - ⑥演習1：業績管理会計事例分析(受講者による事例発表)
【CVP分析】【予算管理】【事業部制会計】
 - ⑦意思決定会計1：意思決定に必要な原価概念について
【関連原価】【埋没原価】【差額原価収益】【機会原価】
 - ⑧意思決定会計2：業務的意思決定について
【自製・購入】【特別注文】【製品価格設定】
 - ⑨意思決定会計3：設備投資の意思決定モデルについて
【差額キャッシュ・フロー】【回収期間法】【NPV】【IRR】
 - ⑩演習2：意思決定会計事例分析(受講者による事例発表)
【業務的意思決定】【設備投資の意思決定】
 - ⑪戦略的管理会計1：伝統的原価管理と原価企画について
【標準原価管理】【戦略的コスト・マネジメント】【源流管理】【品質原価】
 - ⑫戦略的管理会計2：ABC(活動基準原価計算)とABM(活動基準管理)について
【活動】【コスト・ドライバー】【価値連鎖】
 - ⑬戦略的管理会計3：BSC(バランス・スコアカード)について
【ビジョンと戦略】【戦略マップ】【KPI】
 - ⑭演習3：戦略的管理会計事例分析(受講者による事例発表)
【原価企画】【ABC/ABM】【BSC】
 - ⑮総合演習：受講者は、自分の選択したテーマについて3,000字程度のレポートを提出し、プレゼンテーションを行なう。
【総まとめ】
- ※なお、受講者の理解度を高めるために、随時、各テーマにかかわる事例や計算例を取り上げる予定であるので、受講者は電卓を持参されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度(授業への参加姿勢、発言等)30%、演習での事例発表30%、総合演習でのレポートとプレゼンテーション40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

管理会計【夜】

履修上の注意 /Remarks

原価計算の基礎知識があることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

パブリック・マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 永津 美裕 / NAGATU YOSHIHIRO / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国、地方ともに財政難に直面するわが国では、従来の行政を中心とする公共経営の限界が明らかになりつつあり、90年代後半から新たな行政手法としてNPM(ニュー・パブリック・マネジメント)の導入が推進されている。顧客主義に基づき行政の経済性や効率性を重視するNPMは一定の成果をあげているが、NPOなどの市民セクターによる新しい公共の担い手など多面的な主体による公共経営やガバナンスのあり方が問われている。

そのため、NPMの理論や特性、行財政改革手法、公共の担い手としての責務、職業倫理等を学び、外郭団体や公益団体、企業まで含めた公共経営やNPMを超えた福祉や教育の分野などでの市民セクターとの地域協働による新しい公共空間の創造やソーシャルキャピタル等について、今後の展望を探る。

教科書 /Textbooks

授業の際に、適宜必要な資料を配布します

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『パブリック・マネジメント』(2002年) 大住荘四郎 日本評論社
『分権型社会における自治体経営の刷新戦略』(2005年) 総務省分権型社会に対応した地方行政組織の刷新に関する研究会
『非営利組織の経営』(1991年) ドラッカー ダイヤモンド社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① パブリックマネジメント総論I
【パブリックセクターの特性、歴史的経緯、社会的変化、ソーシャルキャピタルの考え方】
- ② パブリックマネジメント総論II
【公共セクターの役割、公共セクターの職業倫理】
- ③ パブリックマネジメント総論III
【NPMの理論背景と基本的考え方】
- ④ 課題議論
【学生による意見交換、論議】
- ⑤ 公益事業(企業等)
【特性、電力、通信、放送、高速道路等】
- ⑥ 公益法人・NPO制度
【NPO, 自治組織など市民セクター】
- ⑦ パブリック組織の組織・人材マネジメント
【わが国の人事制度の特徴】
- ⑧ パブリック組織の財政の仕組みI
【国・地方の予算・決算制度】
- ⑨ パブリック組織の財政の仕組みII
【国・地方の財政分析】
- ⑩ パブリックサービスの改革手法I
【PPP】【民間委託】
- ⑪ パブリックサービスの改革手法II
【独立行政法人】【指定管理者】
- ⑫ パブリックサービスの改革手法III
【第三セクター・外郭団体】
- ⑬ 課題議論
【学生による意見交換、論議】
- ⑭ パブリックサービスの改革手法IV
【PFI】【市場化テスト】
- ⑮ まとめ
【多様な主体による新しい公共、ソーシャルキャピタルの構築】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート、課題に対するプレゼンテーション(70%)、授業の状況(質疑、意見、発表等30%)をもとに総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

パブリック・マネジメント【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生の皆さんの活発な議論や質疑を期待しています。

キーワード /Keywords

財務会計【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ベーシック科目であるアカウンティングの知識を基に、本講座では財務会計領域の知識を積み上げ、意思決定、証券市場、さらには会計プロフェッションによる情報保証と担保責任の問題を、末広がりな考察対象に加えてゆく。本講座は慣習的な「会計の講義」を展開することを意図するものではない。むしろ、刻々と変化するビジネス環境の下で、意思決定者は会計情報をいかに利用し、自らの行動を選択するものが、そうした事柄を自発的に考えさせる機会を提供する。その思考プロセスにあつてはむしろ、国際会計基準 (IFRS) の考え方を学び、その発想方法を援用することもあろう。教員は、履修者が自らの会計的視点を確立するための、ファシリテーターとしての役割を果たす意向である。

教科書 /Textbooks

『Accounting～IFRS水準の企業開示を理解するための諸論点～』
(初回授業時に、無償にて最新版を配布する)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

(一例として) 田中建二著『財務会計入門』中央経済社 (但し購入は任意)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

ベーシックの「アカウンティング」講座の応用編として、主として以下のコンテンツに関わる理解を深め、各々モジュールにして組み立て、財務会計全般の知識の体系化を図る (プレゼンテーションの時間などを要するため、講義順は変わることがある)。

①オリエンテーション：本講座でカバーされる領域と目的、課題等について。

【オリエンテーション】

②財務諸表書式の連関関係について：未実現損益の処理と包括利益の表示など。

【財務諸表のフォーマット】

③キャッシュフロー計算書の作成とその分析方法について。

【キャッシュフロー】

④利益操作の意図と報告利益品質について。

【アーニングズ・マネジメント】

⑤SFAS、IFRS等のGAAPのディテールについて。

【GAAP】【IFRS】【SFAS】

⑥財務諸表分析とその応用：企業価値評価への展望。

【財務諸表分析】

⑦(英文)アニュアル・レポートのコンテキストの理解。

【アニュアル・レポート】

⑧SEC行政処分事例の実際について。

【SEC】

⑨財務諸表の信頼性保証とリスクについて。

【監査】

⑩バランスシートと会計的論点について (減損会計、時価会計等)。

【B/S イシュー】

⑪P/Lと会計的論点について。

【P/L イシュー】

⑫証券市場規制と企業のディスクロージャー行動について。

【ディスクロージャー】

⑬会計情報と投資意思決定について。

【投資意思決定】

⑭財務会計のWrap-up.

【財務会計】

⑮財務会計の知識のアプリケーションと応用。

【アプリケーション】...以上に代表されるテーマについての理解を、受講者の知識経験のレベルにあわせて深めて行く。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポートの質(15%程度)、プレゼンテーションの積極性やディスカッションに際しての貢献度(20%位)、期末試験の成績(65%位)、等を適宜ウェイト付けし、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

財務会計【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域産業【夜】

担当者名 平田 エマ / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

北部九州工エリアを中心に、地域を支える産業の特性を分析しながら、その育成策について実証的かつ実践的に学ぶ。とくに産業立地や産業集積という観点から、地域において主導的な役割を果たしていく産業の成長促進策について体系的に学ぶ。

一方、個別事例などを用いながら企業、事業所レベルのミクロの動きについても注意を払い、九州地域の中小企業が市場開拓や新規参入などを図る際の行動についても分析を加える。また、行政が進める戦略産業促進策や、企業・事業所の動きを支援する企業支援策についてもみていく。

教科書 /Textbooks

配布するプリントを中心とする。その他必要なものについては、講義中にその都度指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中にその都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①日本および九州地域の産業構造と変化の動向
【産業構造】【戦略産業】
- ②北部九州地域の産業構造
【北部九州】【福北大都市圏】
- ③主要産業の動向と地域に与える影響I
【素材産業】
- ④主要産業の動向と地域に与える影響II
【加工組立産業】
- ⑤主要産業の動向と地域に与える影響III
【商業・サービス業】【情報関連産業】
- ⑥地域の特性を活かした新しい産業分野
【医療・健康関連産業】【観光関連産業】
- ⑦地域産業における生産・流通システムの高度化I
【大企業】【事業再構築】【海外展開】【新たな手法の導入】
- ⑧地域産業における生産・流通システムの高度化II
【中小企業】【事業再構築】【海外展開】【新たな手法の導入】【外部資源の活用】【連携強化】
- ⑨地域産業の新規事業開拓I
【既存取引活用型】
- ⑩地域産業の新規事業開拓II
【異分野展開型】
- ⑪地域産業の新規事業開拓III
【事業転換型】
- ⑫地域産業活性化への政策的対応I
【戦略産業支援】【事業高度化促進】【イノベーション支援】【海外展開支援】
- ⑬地域産業活性化への政策的対応II
【立地促進】【企業誘致】
- ⑭地域産業活性化への政策的対応III
【雇用促進】【人材活用】【海外人材活用】
- ⑮地域産業育成のあるべき姿
【企業の経営戦略・事業戦略】【行政支援】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期テスト・・・ 50%、レポート・・・ 25%、日常の授業への取組・・・ 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地域づくり総論を履修していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

地域産業【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際に自分が知っている企業の事例などを授業の中で挙げてもらえると、本講義の理解がより深くなることが期待される。

キーワード /Keywords

地域産業 成長促進策 中小企業 事業戦略 行政支援 産業戦略

国際ビジネス・スキル【夜】

担当者名 /Instructor 山口 実 / YAMAGUCHI, Minoru / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は国際ビジネスにおけるコミュニケーション・スキル、交渉スキル、さらにはプレゼンテーション・スキルを体得することを目的とする。

前半は、発音・文法などの英語の基礎を踏まえた上で、英語表現を反復して声に出しながら、「聞く」「書く」「読む」「話す」と言う国際ビジネス・コミュニケーションの基礎力を育む。また、国際ビジネスの流れと基礎的な貿易用語とその内容を学ぶ。

後半のクラスでは、前半で体得した基礎力に基づいて、ビジネス・コミュニケーションの実践を英語で行う。具体的な場面を想定して、交渉やプレゼンテーションを実践する。その際、あらかじめ用意された課題について、事前に周到な段取りをつける。

尚、講師と受講生はその都度英文e-mailにて交信する。

教科書 /Textbooks

適宜、講師の作成したプリントを配布。

NHK ETVのビジネス・コミュニケーション関連番組のビデオ・ホームページなどup-to-dateな話題を活用しながら楽しく学習する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

会社で使う英会話 (ペレ出版 2002) IBN4-86064-010-1

日商ビジネス英語検定2・3級公式テキスト (日本能率協会マネジメントセンター)

ISBN4-8207-4183-7, ISBN4-8206-4255-8

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

①国際ビジネス・スキルの講義概要 【コミュニケーション・スキル、プレゼンテーション・スキル】

②英語の基礎の復習【発音と英語文法の学び方とその重要性】

③リスニングI 【Websiteを活用してのリスニング・スキルの向上】

④リスニングII 【DVD・CDを活用してのリスニング・スキルの向上】

⑤ライティング 【ビジネスe-mailとレターの書き方】

⑥スピーキングI 【ショート・トーク】【会食(ビジネス・ランチ)】

⑦貿易業務の流れ・基本用語

⑧前半のまとめ、及び企業哲学と組織のビジョンについて

⑨ビジネス交渉実践I 【契約条件の交渉】

⑩ビジネス交渉実践II 【船積と代金回収】

⑪ビジネス交渉実践III 【リスクマネジメント】

⑫プレゼンテーション実践I 【プレゼンテーションの決まり文句】

⑬プレゼンテーション実践II 【自己及び製品の売り込み】

⑭プレゼンテーション実践III 【プロジェクトのプレゼンテーション】

⑮パブリック・プレゼンテーション

成績評価の方法 /Assessment Method

ビジネス英語力とプレゼンテーション能力の成長度40%、

授業及び課題への積極的な取り組みとその実践を60%として評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予め配布した教材に目を通し、その概略を理解しておくこと。

その他必要があれば、適宜事前に連絡する。

履修上の注意 /Remarks

しっかり講義に出席して、課題等に就き講師の指示に従うこと。

目的意識を持って、授業を楽しむこと。

講義に関する質問や要望は大歓迎。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

25年の三井物産の国際ビジネスマンとしての経験・知恵や通算約14年半の米国・イギリス・中東・インドネシアなどの在外経験、更に9年の実践ビジネス英語及び国際ビジネスコミュニケーション講師としての大学での教育経験を活かして、楽しく有意義な講義を行いますので、一緒にベストを尽くして学びましょう。

国際ビジネス・スキル【夜】

キーワード /Keywords

Practice makes perfect.
ご縁～利他の精神
Sustainable Business

ロジスティクス【夜】

担当者名 藤村 幸弘 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

プロジェクトアプローチの講義

実際の企業の課題を用い、ICT(情報技術ツール)を活用しフォーマルな学び(座学)とインフォーマルな学び(実体験)を組み合わせたプログラムです。

バリューチェーン、サプライチェーンの基礎知識を基に国際ビジネスプランを作成する。講義に於いては、グローバルビジネスカルチャー、パートナーシップ、チームビルディング、コラボレーションワークを体験しながら、“地域からグローバルビジネスモデル構築を行うことを目的とする。”

教科書 /Textbooks

プロジェクトにて内容を表示、支給したiPadを使用しテキストを閲覧

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

基本的なサプライ・チェーン・マネジメントの著書

M・E・ポーター著 『競争優位の戦略』 ダイヤモンド社

バーバラ・ミント著 『考える技術・書く技術』 ダイヤモンド社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション【国際ビジネスとロジスティクス】
バリューチェーン・サプライチェーン・グローバルサプライチェーンの関係
- ② チーム結成【チームビルディング】
プロジェクト課題決定
ファシリテーターの役割、リーダーの役割を“学ぶ”
- ③④ サプライチェーンとマーケティングの関連性を“学ぶ”
③【バリューチェーンとプロセスの検証】 ④【マーケットリサーチ】
SCMの事例紹介 “ポジショニング”の重要性
“パートナーリング”“チームマネジメント”の重要性
- ⑤⑥ 地域から見た国際ビジネスを“学ぶ”
⑤【リアルタイム情報の重要性】 ⑥【コーポレートファイナンス】
“ソーシャルネットワーク”を活用した世界のリアルタイム情報と分析法
第一回目ビジネスプランの検証
- ⑦⑧ 地域から見た国際ビジネスを“学ぶ”
⑦【ビジネスモデルの構築手法】 ⑧【グローバルビジネスに必要な知識】
グローバル情報を基に地域からグローバルビジネスを考える。
- ⑨⑩ 地域から見た国際ビジネスを“学ぶ”
⑨⑩【情報共有とディスカッションから得る知識】
インフォーマルな形でのチームメンバーからの学びの重要性
- ⑪⑫ ビジネスプランの検証
⑪【チームディスカッション】 ⑫【目標設定とプランの重要性】
- ⑬⑭⑮ プレゼンテーションと統括
⑬【プロジェクトの進捗確認】
⑭【プレゼン手法】
⑮【ビジネスプランのプレゼンテーション】

成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッションへの参加率、実態調査への貢献度、プレゼンテーションへの貢献度を元に総合的に評価する。ディスカッション(25%)、調査資料(25%)、プレゼンテーション(25%)、モチベーション(25%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ロジスティクス【夜】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

「国際経営」を履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

問題解決スキル【夜】

担当者名 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
											○	○

授業の概要 /Course Description

ビジネスに必要なスキルは、プレゼンテーション、ライティング、コミュニケーションなど多岐にわたるが、本講義では、問題解決に必要とされる基本的な思考方法、分析ツールを紹介し、ケーススタディを通して解決スキルを習得してもらうことに主眼を置いている。

前半は、システム分析の視点から授業を構成する。後半は、適宜、演習問題を課すことによって理解力を高め、スキルの向上をめざす。

具体的には、KJ法、オペレーションズ・リサーチ、ビジネスモデル、TOCなど、簡単なものからパソコンを利用したいいくつかの分析手法を取り上げる。

教科書 /Textbooks

プリントまたは冊子を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

平山克己(2008年)『あほ賢システムのおはなし』SCC
刀根 芳(2001年)『オペレーションズ・リサーチ読本』日本評論社
柏木吉基(2006年)『Excelで学ぶ意思決定論』Ohmsha
エリヤフゴールドラット著、三本木亮訳(2001年)『ザ・ゴール』ダイヤモンド社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義方式に加え、グループワーク、パソコン演習、ケース・スタディを組み入れることで知識の理解を深め、かつ思考能力を涵養する。各講義内容は以下の通り

- 1回 問題解決手法とは 【ブレインストーミング】【KJ法】
- 2回 問題解決手法演習 【KJ法】
- 3回 表計算ソフトによる図解化法 【グラフ化】【統計的分析】
- 4回 表計算ソフトによる図解化法演習 【グラフ化】【統計的分析】
- 5回 オペレーションズ・リサーチとは 【PERT】【アクティビティ】【プロジェクト管理】
- 6回 オペレーションズ・リサーチ演習 【最適化】【線形計画法】
- 7回 ビジネスモデルとは 【IDEF】【アクティビティ】
- 8回 ビジネスモデル演習 【Activity Based Costing】【管理会計】
- 9回 制約条件の理論 (Theory Of Constraint)とは 【制約条件】【ボトルネック】【ドラムバッファロープ】
- 10回 制約条件の理論 (Theory Of Constraint)演習
- 11～15回 演習 Reading Assignment発表 【ケース・スタディ】

成績評価の方法 /Assessment Method

学習状況・・・30% 課題・・・40% 討議の貢献度・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ノートパソコンを持参してもらう場合があります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

チーム・マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 山口 裕幸 / Hiroyuki Yamaguchi / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 集中 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
											○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、チームを構成するメンバーが、活動を通して相互作用する過程でチームに備わってくる（創発されてくる）特性としてチームワークや、チーム・コンピテンシー、チーム・レジリエンスをとらえ、それらのチームレベルの特性を、より高品質なものへと育み、強化するための働きかけを考える視点から、効果的なチームマネジメントについて論じていく。

グループ・ダイナミクス、組織行動論、戦略的人的資源管理論、複雑系科学、進化論を学術的論考の基盤としつつ、組織現場で発生している現実問題を題材として取り上げながら、いかなるマネジメントが効果的であるのかを、マイクロレベル（＝個人の心理プロセスや行動特性）と、それらが相互作用することでできあがり、また変容していくマクロレベル（チーム・パフォーマンス、チーム規範、チームワーク等）の相互作用ダイナミズムに注目しながら、講義を進めていく。具体的に取り上げるトピックは、次のような構成を考えている。

1. チーム・マネジメントのターゲットは何か
2. チームの特性と類型を理解する
3. チーム発達論
4. チームワークとは何か
5. メンバー個々のチームワーク能力
6. チーム・コンピテンシーを考える
7. チーム・レジリエンスの重要性
8. チーム・デザイン論
9. チーム・ビルディング論
10. チーム・マネジメントとリーダーシップ

教科書 /Textbooks

「チームワークの心理学 - よりよい集団づくりをめざして -」 山口裕幸（著） サイエンス社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『経営とワークライフに生かそう！ 産業・組織心理学』 山口裕幸・高橋潔・芳賀繁・竹村和久（著） 有斐閣アルマ
『<先取り>指向の組織心理学 - プロアクティブ行動と組織』 古川久敬・山口裕幸（編著）有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業は、集中講義形式での開講を予定しており、5コマ×3日で構成を考えている。また、講義を基盤とするが、課題を準備して、自らの意見を考えたり、受講生どうして議論したりする、演習形式も適宜、取り入れる。

<1日目：5コマ（講義を基盤に進めます）>

1. チーム・マネジメントに関する研究と実践の歴史（1）【キーワード：機械組織観、ホーソン研究、人間性心理学】
2. チーム・マネジメントに関する研究と実践の歴史（2）【キーワード：自己組織性、組織改革、チームワーク】
3. チーム・マネジメントのターゲットを同定する【キーワード：組織規範、組織コミュニケーション】
4. チームとは何か、その特性と類型【キーワード：チームとタスクフォース、クルー】
5. チーム発達論【キーワード：組織の硬直化現象、ライフサイクル理論、】

<2日目：5コマ（講義と演習）>

6. メンバーの相互作用ダイナミクスとチーム・コミュニケーションの特性理解（講義）【キーワード：場の理論、ネットワーク】
7. メンバーの相互作用ダイナミクスとチーム・コミュニケーションの特性理解（課題を用いた演習）
8. チームワークとは何か（講義）【キーワード：モニタリング、相互調整、相互支援、相互指摘】
9. チーム・コンピテンシーとチーム・レジリエンスを育むには（課題を用いた演習）
10. チーム・コンピテンシーとチーム・レジリエンスを育むには（講義と議論）【キーワード：コンピテンシー、レジリエンス、失敗学】

<3日目：5コマ（講義と演習）>

11. チーム・パフォーマンスを阻害するチーム・ダイナミクスの理解（講義）【キーワード：プロセス・ロス、集団ヒューリスティック】
12. 優れたチーム・コミュニケーションを育むための条件【キーワード：共有メンタルモデル、暗黙の強調】
13. チーム・デザインとチーム・ビルディング【キーワード：介入型チーム育成、自律管理型チーム】
14. 優れたチーム・マネジメントを実現するリーダーシップを考える（課題を用いた演習）
15. 優れたチーム・マネジメントを実現するリーダーシップを考える（講義）【キーワード：目標管理、影響力、ミッション、ビジョン】

☆全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の途中で課される課題への解答の精度（25%）、課題や議論への参加態度（25%）、レポートの品質（50%）を総合して成績を評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

チーム・マネジメント【夜】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の中で具体的に準備すべき事柄を伝えていく。

履修上の注意 /Remarks

特にない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

チームワーク、グループ・ダイナミクス、チーム・コミュニケーション、リーダーシップ、コンピテンシー、レジリエンス、

環境ビジネス【夜】

担当者名 /Instructor 永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
											○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、第1に経済システムという視点から環境問題や環境行動を考察する(マクロ的分析)。第2に、環境ビジネス分野ごとの動向を把握し、現状分析と課題抽出を行い、その動向を探る(セミマクロ的分析)。第3に、企業経営において必要とされる環境行動について検討し、分析フレームワークに基づく課題解決のためのプランを検討する(ミクロ的分析)。これによって環境とビジネスの関わりについて幅広い知識を得るとともに、さまざまな部面で生じる課題を分析し解決する力を身につけることを目指す。

教科書 /Textbooks

講義は基本的に配布プリントにて行うが、必要に応じて参考文献を指定する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ダニエル・C・エスティ/アンドリュー・S・ウィンストン(村井章子訳)『グリーン・トゥ・ゴールド』アスペクト、2008年。
その他の文献については、講義のなかで紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①イントロダクション
【環境ビジネスとは何か】
- ②企業活動と環境問題
【環境問題と企業活動の関係を考える】
- ③社会システムと環境問題
【持続可能な発展：市場・行政・社会のシステム】
- ④リサイクルビジネスの基礎
【リサイクルビジネスの分野と成長可能性】
- ⑤リサイクルビジネスの課題
【リサイクルビジネスの課題とその解決方法】
- ⑥環境ビジネスにおける顧客創造
【顧客とは誰か？顧客創造とは何か？】
- ⑦環境産業クラスター1
【環境産業クラスターの現状と課題】
- ⑧環境産業クラスター2
【環境ビジネスにおける戦略とファイブフォース】
- ⑨現場から考える環境ビジネス1
【ゲストスピーカーによる講義と議論】
- ⑩現場から考える環境ビジネス2
【ゲストスピーカーによる講義と議論】
- ⑪環境ビジネスにおけるイノベーション1
【環境分野における技術革新と市場への適用】
- ⑫環境ビジネスにおけるイノベーション2
【環境ビジネスを通じたソーシャルイノベーション】
- ⑬環境ビジネスの市場分析と参入可能性1
【市場分析のフレームワーク】
- ⑭環境ビジネスの市場分析と参入可能性2
【市場分析に基づくディスカッション】
- ⑮まとめとディスカッション
【課題設定にもとづきディスカッション】

※なお、上記に加え、希望者による環境企業見学を行う(予定)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への貢献度(発言回数、発表内容、建設的な議論への寄与など):50%、課題の内容(レポートなど):50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

環境ビジネス【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経営【夜】

担当者名 晴山 英夫 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
											○	○

授業の概要 /Course Description

経営のグローバル化に関する広い視野と深い洞察力、国際化戦略に関する専門知識の習得を目的とする。講義は大きく2部構成とし、第1部では国際経営の概念や理論、戦略論について学ぶ。第2部では日本企業の課題分析や事例研究を中心に討論を行い、理解を深めることにしたい。

教科書 /Textbooks

レジュメと資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

吉原英樹編著 『国際経営論への招待』 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インフラダクション 【グローバル化】【脱成熟化】【産業の空洞化】
- 2回 経営の国際化 【国際化の動機と発展経路】【経営資源の移転】【多国籍企業】
- 3回 国際経営の理論 【直接投資の論理】【国際資源移転論】【PLC理論】【OLI理論】
- 4回 多国籍企業の海外進出戦略【輸出】【技術供与】【海外生産】【カントリーリスク】
- 5回 多国籍企業の発展段階【ロビンソンの6段階説】【パールムッターの4類型論】
- 6回 国際ポートフォリオ戦略【グローバル統合】【ローカル適応】【トランスナショナル戦略】
- 7回 国際経営の所有政策【完全所有と合併】【グリーンフィールドと企業買収】
- 8回 国際経営組織の発展【国際事業部】【製品別・地域別事業部制】【マトリックス組織】
- 9回 多国籍企業のマネジメント【本国親会社と海外子会社】【欧州型・米国型・日本型】
- 10回 海外生産のマネジメント【海外生産の論理】【欧米系企業と日系企業の比較】
- 11回 国際人的資源管理【集権化と分権化】【本国志向の日系企業】【現地志向の欧米系企業】
- 12回 日本多国籍企業の経営課題【経営現地化の遅れ】【業績の低迷】【内なる国際化】【ガラパゴス化】
- 13回 事例研究—ノキアの国際戦略【競争優位性】【知識経営】【ボトム・オブ・ピラミッド】
- 14回 事例研究—東アジア華人系多国籍企業の国際戦略【EMS】【ODM】【コスト競争優位】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート(30%)、討議参加度(70%)により成績を評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要に応じて指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ベンチャー・ビジネス【夜】

担当者名 /Instructor 越出 均 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 本講義は起業家社会を標榜したアントレプレナーの行動特性などを踏まえながら、事業創造とスタートアップ、成長・発展から成熟までの各段階に対応した戦略、マネジメントについて検討する。コーポレート・ベンチャリング、スピンアウト、さらにはソーシャル・アントレプレナーなどを含む起業形態を想定した上で、情報サ-ビス業者の起業モデルなどを先例としたケース・スタディを行い、ビジネス・チャンスの探索、ビジネスプランの策定、企業設立、そして経営手法に学ぶ実践的学習方法を取り入れる。

教科書 /Textbooks
 なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 越出均『起業モデル』、創成社
 ティモンズ『ベンチャー創造の理論と戦略』、ダイヤモンド社
 ヴェスパー『ニューベンチャー戦略』、同友館

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- ① 起業家精神と行動特性
 【アントレプレナーのマインドと学習】
 - ② シリコンバレー・モデル
 【ビジネス・インキュベーション】
 - ③ ベンチャー企業のスタートアップ
 【革新的スモールビジネスの存続条件】
 - ④ ベンチャー企業の創造プロセス
 【ビジネスチャンスの探索と戦略思考】
 - ⑤ ベンチャー企業の成長と発展
 【変革と成長の痛み】
 - ⑥ ベンチャー企業のマネジメント
 【経営のプロフェッショナルをめざして】
 - ⑦ ベンチャー企業・革新的中小企業の実例
 【ゲストによる事例報告】
 - ⑧ コーポレートベンチャリング
 【社内起業家の取り組みと第二創業】
 - ⑨ 研究開発の事業化
 【事業提携とジョイント・ベンチャー】
 - ⑩ ソーシャル・ベンチャー
 【事業志向型の社会起業家】
 - ⑪ ネットベンチャー
 【ビジネスモデルの創造】
 - ⑫ 新規事業のプランニング
 【事業計画書の作成】
 - ⑬～⑭ ビジネスプランの作成とプレゼンテーション

成績評価の方法 /Assessment Method
 ディスカッションへの貢献度(2割)と課題に関するレポートで評価(8割)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ベンチャー・ビジネス【夜】

キーワード /Keywords

戦略的提携と事業創造【夜】

担当者名 林 秀美 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「戦略的提携と事業創造」は、知識社会化が進展していく21世紀型の事業戦略の核である他組織との戦略的提携（アライアンス）による新たな事業創造のメカニズムを習得することを目的としている。この科目は、実務経験をもとにしたケーススタディを中心に受講生とのディベートを通して理解を深めていくことにする。
知識社会化を前提とした21世紀の事業創造は、各組織(企業)のコアコンピタンスの連携によるコラボレーション(戦略的提携)がいかに中心的役割を果たすことになるのかを明らかにする。この戦略的提携による事業創造を具体的な事業として実現していくには、どのようなプロセスをたどるのが、そのプロセスについてケーススタディを中心に理解していく。この講義は、実践力の養成に主眼を置くことにする。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 戦略的提携と事業創造【地図屋のIT革命】【デジタル化】
- ② 戦略的提携と事業創造【地図屋のIT革命】【ネットビジネス】
- ③ 技術革新と事業創造発想のプロセス【知識社会】【技術革新と新規事業創造】
- ④ アライアンスとアウトソーシング【共同開発】【コンソーシアム】【資本提携】
- ⑤ 事業計画書の策定【事業計画】【戦略立案】【収支計画】
- ⑥ 戦略立案のプロセス【ケーススタディ・ディスカッション】
- ⑦ トップの意思決定プロセスと事業創造【3つの問題】【社内意識統一】
- ⑧ 戦略的提携のプロセスと課題【マーケットの創出と早期参入】
- ⑨ 企業内イノベーション～組織と人事【プロジェクトリーダー】【組織の変遷】
- ⑩ 意識改革、発想のイノベーション【既存概念を捨てる】【気づき】
- ⑪ 戦略的提携と事業実現(ケーススタディ・ゲスト講義)
- ⑫ 戦略的提携と事業実現(ゲスト講義に関するディスカッション)
- ⑬ 戦略的提携と事業創造を実現するための課題【10年後をイメージする】
- ⑭ 戦略的提携と事業創造を考える(課題発表)
- ⑮ 戦略的提携と事業創造を考える(まとめ、課題発表とディスカッション)

成績評価の方法 /Assessment Method

試験はおこなわない。ケース・ディスカッションに対する貢献度(40%)や毎回のテーマごとのレポート、課題提出(60%)などを総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

ベンチャー・ビジネスを履修しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィナンシャル・インベストメント【夜】

担当者名 /Instructor 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2単位 学期 /Semester 1学期 1学期 授業形態 /Class Format 講義 講義 クラス /Class 2年 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

さまざまな金融商品のリスク・リターン特性、証券市場の価格決定メカニズムを学んだうえで、ポートフォリオの運営やデリバティブの活用方法などについて実例を交えながら学ぶ。具体的には、金融・証券市場、投資の基本概念、債券投資、株式投資、デリバティブ、現代ポートフォリオ理論、資本市場理論などについて、実例を通して学び、自ら分析できるようにする。そして、分析手法をケース・スタディに応用して、実践的な分析力を養い、適切な経営判断ができるようにする。

教科書 /Textbooks

ボデイ&マートン（著）大前恵一朗（訳）(2001年)『現代ファイナンス論 改訂版』ピアソン・エデュケーション

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ブリーリー&マイヤーズ&アレン（著）藤井真理子・国枝繁樹（監訳）(2007年)『コーポレート・ファイナンス（第8版）上・下』日経BP社、日本証券投資アナリスト協会編(1998年)『証券投資論3版』日本経済新聞社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション 【ファイナンス】
- ② 金融市場と金融資産
【市場】【債券】【株式】【派生商品】【機関投資家】
- ③ 投資の基本概念
【現在価値分析】【投資収益率】【効用】
- ④ 債券投資分析（1）金利と債券価格
【最終利回り】【デュレーション】【イールド・カーブ】
- ⑤ 債券投資分析（2）金利の期間構造
【イールド・カーブの特性】【純粋期待仮説】
- ⑥ 株式投資分析（1）配当割引モデル
【ゼロ成長モデル】【定率成長モデル】
- ⑦ 株式投資分析（2）市場の効率性と株式投資
【効率的市場仮説】【アノマリー】
- ⑧ デリバティブ（1）先物の理論価格とヘッジ
【先渡取引】【先物取引】【ベシス・リスク】【ヘッジ比率】
- ⑨ デリバティブ（2）オプションの仕組みと利用法
【コール・オプション】【プット・オプション】【本源的価値】
- ⑩ ポートフォリオ理論（1）
【期待収益】【投資リスク】【分散投資のリスク軽減効果】
- ⑪ ポートフォリオ理論（2）最適ポートフォリオ
【無リスク証券】【分離定理】
- ⑫ ポートフォリオ理論（3）ケース・スタディ
【アセット・アロケーション】
- ⑬ 資本市場理論（1）CAPM（資本資産評価モデル）
【資本市場線】【ベータ】
- ⑭ 資本市場理論（2）裁定価格理論
【ファクター・モデル】【裁定ポートフォリオ】
- ⑮ 資本市場理論（3）ケース・スタディ

成績評価の方法 /Assessment Method

クラスへの貢献度 30パーセント
課題の提出 30パーセント
期末レポートまたは期末試験 40パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ファイナンス」を履修しておくことが望ましい

履修上の注意 /Remarks

フィナンシャル・インベストメント 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国ビジネス【夜】

担当者名 /Instructor 高橋 基人 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「チャイナ・プラス・ワン」、「チャイナ・リスク」などのキーワードが頻繁に目に触れるようになっている。特に中国脅威論の多さには驚かされる。持続的高成長を実現してきた中国という現実的な巨大市場が存在しているからこそ、日系企業が中国ビジネスに対する大きな期待を寄せながら、過度な依存への警戒心を抱いている。中国市場と如何なる関わり方を持つかは広く関心を持たれる課題になっている。本講義は中国市場の特性、ビジネス慣習を紹介した上、中国への進出企業のユニークなケースを2つ取り上げる。それぞれの事業戦略パターン、事業展開の経緯、成功の秘訣、リスク対策を、複数の経験豊かな専門家が実際の経験を踏まえて伝授していく。

教科書 /Textbooks

基本的にはプロジェクターを使用。
必要に応じてプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋基人著『中国人にエアコンを売れ!』草思社
高橋基人著『「新しい中国」で成功する!』草思社
高橋基人著『度胸で勝ち抜く中国ビジネス』双葉社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション～講義内容の構成、進行法、課題提出、グループ編
【市場の特性】、【ビジネス慣習】
- ② 日中間の経済相互依存関係
【政冷経熱】 【直接投資】
- ③ 中国ビジネス開拓事例A -機械メーカー
【事業戦略の構築】【パートナーの物色】【変貌する中国市場】
- ④ 中国人とはどういう人達か! ?
【R.I.C.は重要】
- ⑤ 経営の現地化
【人事の現地化】【中国ビジネス成功のためのポイント】
- ⑥ 日系企業に求められているポイントと課題
【発展空間とは】【市場開拓】
- ⑦ 交渉の心得!
- ⑧ 危機管理
【日常管理と非常時】【偽物商標対策と著名商標】
- ⑨ 中国の消費者行動と広報と広告宣伝活動、その戦略
【ブランドイメージ】【媒体を使つての広報活動や企業広報としてのフォーラム】
- ⑩ 販売網の構築と差別化戦略
【アフターサービス】【業教育】【現金取引】
- ⑪ 中国市場の変化を見抜け
【消費者の嗜好】【過当競争】
- ⑫ 日系企業の弱点
実例、受講者の感触を踏まえて議論する
- ⑬ 中国ビジネスで気をつけること
駐在員、出張者の安全管理は益々重要に、ほか
- ⑭ 中国向け貿易ビジネスの開拓事例B—日中間加工貿易のケース
【OEM】【合併事業】【三角貿易】【環境配慮型】
- ⑮ まとめ=総合討論

成績評価の方法 /Assessment Method

課題に対するレポート(50%)、討論参加度(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

中国ビジネス【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境政策【夜】

担当者名 /Instructor 垣迫 裕俊 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 北九州市は、わが国でも特異な環境政策の歴史を有する都市である。本授業では、北九州市での実践事例を題材にして、環境政策の基本的な考え方、環境ビジネス振興のポイント、環境問題における市民とのコミュニケーションのあり方、さらには低炭素社会に向けた企業活動や国際的な政策の動向を学ぶ。

教科書 /Textbooks
 授業の都度、資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 『環境首都北九州市～緑の街を蘇らせた実践対策』北九州市環境首都研究会、日刊工業新聞社

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- ①環境政策総論
【講義全体の概要】
 - ②環境政策の原則、手法
【予防原則、拡大生産者責任、ポリシーミックス】
 - ③持続可能性論
【サステナビリティ、社会関係資本、公共政策の統合】
 - ④北九州の公害対策史
【全国総合開発計画、典型7公害、EOPとCP】
 - ⑤エコタウン事業とは何か
【総合環境コンビナート、実証研究、循環型社会】
 - ⑥エコタウン事業の成果、展開、課題
【政策評価、環境政策と産業政策、エコプレミアム】
 - ⑦国際環境協力から海外ビジネスへ
【KITA、アジア低炭素化センター、水ビジネス】
 - ⑧PCB処理事業
【情報公開、説明責任、リスクコミュニケーション】
 - ⑨家庭ごみ収集制度の見直しと市民
【経済的手法、分別、コスト】
 - ⑩地球温暖化と国際社会の動向
【IPCC、COP、ポスト京都議定書】
 - ⑪低炭素社会に向けた政策動向
【2050年、見える化、限界削減費用】
 - ⑫次世代環境ビジネスとグリーンイノベーション
【静脈産業、再生可能エネルギー、電力ネットワーク】
 - ⑬北九州市の低炭素戦略
【スマートコミュニティ、環境未来都市、緑の成長戦略】
 - ⑭地域社会の持続可能性とは
【経済・環境・社会的持続可能性、地域資源、福祉と雇用】
 - ⑮まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 授業への参加姿勢 (30%)、授業中のディスカッションへの貢献度 (40%)、課題レポート (30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks
 環境政策の基礎から実践までを体系的に学ぼうとする学生。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境政策【夜】

キーワード /Keywords

医療マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 舟谷 文男 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

医療は特殊な公共的サービスであり、社会保障制度の一つとして重要な役割を担っている。わが国は、世界に類をみない国民皆保険制度がとられているが、前例のない少子高齢社会を迎え、制度改革が矢継ぎ早に行われている。大変革期における適切な医療資源の確保、良質で低廉な医療サービスの提供をどのように実現するかが社会課題となっている。しかし、どのような時代であっても合理性を持った医療サービスが求められる。本講では、多くの業種でも活用されているマネジメント技法が医療現場で応用されている状況を系統的に紹介し、医療マネジメントの要点を理解させる。

教科書 /Textbooks

プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

厚生労働省編『厚生白書』、的場恒孝編『医療科学入門』南江堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 序論 医療政策と医療マネジメント
- ② 医療は特殊な社会サービス
- ③ 医療サービス選択の自由と患者マネジメント
- ④ 医療サービスを支える医療資源のマネジメント
- ⑤ 医療安全のマネジメント
- ⑥ 医療費支払いの適正化
- ⑦ 医療サービスの価格設定と国民医療費の関係
- ⑧ 医療情報システムによるマネジメントの可能性
- ⑨ 病院・診療所のコスト管理
- ⑩ 高度先進医療のマネジメント
- ⑪ 周産期医療・小児医療のマネジメント
- ⑫ 高齢者医療と介護のマネジメント
- ⑬ ライフサイクルごとの保健事業のマネジメント
- ⑭ 地域ケアネットワークのマネジメント
- ⑮ 医療マネジメントの指標設定と医療評価

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポートの評価 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉マネジメント【夜】

担当者名 芳賀 祥泰 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

少子超高齢社会において福祉は成長産業になっている。福祉サービス供給主体としては、社会福祉法人、医療法人、営利法人、NPO 法人など多様になっている。福祉に携わる人は、これまで以上にマネジメントの必要性が増している。一方、これから福祉産業に参入をしようとするならば、逆に福祉マインドを学ぶ必要がある。つまり福祉産業に携わる人は、福祉マインド+マネジメント力が必須になる。福祉産業の充実が、医療産業とともに、産業としての成長だけではなく、今後は地域社会の中での地域ブランド力の重要な要素になる。福祉に携わる人だけではなく、他の産業に携わる人こそ知っておくべき内容である。毎回講義だけではなく討議を行う。

教科書 /Textbooks

プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

芳賀祥泰編著(2007年)『福祉マネジメント』エルダーサービス
小松理佐子編(2010年)『よくわかる社会福祉運営管理』ミネルヴァ書房
芳賀祥泰編著(2010年)『福祉の学校』エルダーサービス
芳賀祥泰著(2005年)『介護塾』日本医療企画

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション 1
【地域社会と福祉】
- ② イントロダクション 2
【福祉経済、福祉産業】
- ③ 福祉マネジメント 1
【福祉マネジメント概論】
- ④ 福祉マネジメント 2
【ビジョン・ミッション】
- ⑤ 福祉マネジメント 3
【リーダーシップ】
- ⑥ 福祉マネジメント 4
【組織風土・人材育成】
- ⑦ 福祉マネジメント 5
【財務・法務】
- ⑧ 福祉マネジメント 6
【リスクマネジメント】
- ⑨ 福祉マネジメント 7
【経営戦略】
- ⑩ 福祉マネジメント 8
【マーケティング】
- ⑪ ケーススタディ 1
【社会福祉法人・医療法人】
- ⑫ ケーススタディ 2
【生活協同組合・NPO 法人】
- ⑬ ケーススタディ 3
【営利法人】
- ⑭ 課題発表会
【課題についての討議】
- ⑮ まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(50%)、課題に対するレポート(50%)で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

福祉マネジメント 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス中国語【夜】

担当者名 /Instructor 松下 丹紅 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

東洋文化の大きな特徴の一つに、まず言語表現の建前と本音の違いをあげることができる。中国（中華）社会も例外ではない。ビジネスで常用される決まり文句、独特な言い回し、各種ビジネス書類の読み方、作り方を学んでいく。一定の中国語基礎を持っている方の受講が望ましい。

教科書 /Textbooks

中国語初級テキスト
『仕事のための基礎中国語』（金星堂）2600円 及び 手作りプリントの配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①発音の総復習、中国語による自己紹介等
- ②中国商慣習、出迎えの時の会話
- ③車での移動、ホテルまでの案内
- ④ホテルの部屋を見る
- ⑤会社見学、数字の表現
- ⑥紹介、時間の表現
- ⑦電話を受ける時の会話
- ⑧⑨商談会話
- ⑩⑪契約書の翻訳
- ⑫⑬ビジネスレター
- ⑭価額交渉
- ⑮まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への授業への参加姿勢（30%）、終了テスト（70%）によって評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

国際経営を履修しておくことが望ましい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自治体政策【夜】

担当者名 /Instructor 吉村 弘 / YOSHIMURA, Hiroshi / 社会システム研究科 博士後期課程

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現在日本は、豊かな成熟社会の中で市民のニーズは高度化多様化し、他方、グローバル化・人口減少・少子高齢社会として財政逼迫に直面している。その上自治体は「平成の大合併」後の本格的な地方分権のもとで、道州制や新しい国土形成計画など全国的な地域再編を迫られている。このような行政環境の変化に対応すると同時に、市民ニーズに適う政策課題を探求し、それらを政策形成に的確に反映させることは自治体運営の大きな課題である。本講義では、このような自治体の課題に応える人材の育成を目指して、自治体政策について、自治体を取り巻く環境変化、地域再編、産業と都市、政策形成上等の観点から考察する。受講生の希望次第では、研究報告をまとめるために役立つように、「報告・ディスカッション方式（報告者が自分の研究テーマにそって輪番で報告し、全員でディスカッションする）」を採用することも可能である。

教科書 /Textbooks

授業の際、テキスト資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

広島大学地域経済システム研究センター編(2002年)『地域政策の道標』ぎょうせい
 吉村弘(1999年)『最適都市規模と市町村合併』東洋経済新報社
 吉村弘・戸田常一・齋藤寛男編著(2002年)『グリーン共創序説 - - - 循環型社会を目指して - - - 』同文館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション：講義のねらい・概要説明・注意事項など
【WHATとHOW、課題設定と解決方法、問即答、知情意】
- ② 現代社会の潮流と政策課題探求①現代社会の潮流と公的部門の変容
【現代の世界の動向、世界の中の日本、日本の中の公的部門】
- ③ 現代社会の潮流と政策課題探求②公的部門の変容と政策課題
【市場と政府、民で出来ることは民で、公的部門の固有の役割】
- ④ 現代社会の潮流と政策課題探求③公的部門の変容と地域再編（その1）
【地方分権、地方自治制度、市町村合併】
- ⑤ 現代社会の潮流と政策課題探求④公的部門の変容と地域再編（その2）
【市町村合併の行方、道州制、国土形成計画】
- ⑥ 現代社会の潮流と政策課題探求⑤地域再編と地域間競争
【都市間競争、地域の盛衰、地域間格差、生産性と地域動態】
- ⑦ 現代社会における都市と産業①地域間競争と産業
【地域と産業、人口移動、足による投票】
- ⑧ 現代社会における都市と産業②経済発展と産業構造
【リーディング産業、経済発展、産業構造、生産性】
- ⑨ 現代社会における都市と産業③工業化とサービス経済化
【工業化、サービス経済化、産業が都市を造る時代、都市が産業を造る時代】
- ⑩ 現代社会における都市と産業④サービス経済化と知価社会
【サービス経済化の新しい展開、付加価値生産性、知価社会】
- ⑪ 成熟社会における自治体の政策課題①市民社会の成熟と市民ニーズの多様化
【市民社会の成熟、地域再編、産業と都市、持続可能性、市民ニーズ】
- ⑫ 成熟社会における自治体の政策課題②活力ある福祉社会
【公立と公平、格差社会、社会福祉基礎構造改革】
- ⑬ 成熟社会における自治体の政策課題③政策形成上の課題（その1）
【市民ニーズ、公民パートナーシップ、情報開示、説明責任】
- ⑭ 成熟社会における自治体の政策課題④政策形成上の課題（その2）
【行政評価、インプット、アウトプット、アウトカム、市場化テスト】
- ⑮ 討議とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中のプレゼンテーション・ディスカッションとレポートとを各々50%のウェイトを目途として総合的に成績評価したい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

自治体政策 【夜】

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・マクロ経済学を履修しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

モノづくり競争力の強化【夜】

担当者名 /Instructor 雨澤 政材 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 わが国は、資源小国であり、製造業が勝ち残るためには、モノづくりの競争力で世界に優位でなければならない。メイド・イン・ジャパンとして、世界トップのものづくり大国だった日本は80年代には勤勉さがもたらした高品質でその優位を保ってきたが、いまやそれだけでは追い上げてきている諸国に足元を脅かされてきている。この現状を踏まえ、今後モノづくり競争力をどのような方法で強化すべきかを実務家の視点から、人材育成と工場運営のあり方、生産性の重要性、生産技術などに重点をおいて、その対策について、事例を紹介しながら解説する。

教科書 /Textbooks
 特に指定しない、プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 その都度指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 講義方式に加えて、DVD やプロジェクターを活用し、分かりやすい解説を心がける。質疑応答の時間を十分に取、理解を深めてもらう。

- ① モノづくり企業に求められる競争力
 【開発からアフターサービス】 【商品開発力】 【生産技術力】 【工場運営能力】
 【宣伝・販売力】
- ② 工場管理概論
 【企業による工場の位置づけ】 【工場管理の基本】 【工場の持つべき要件】
- ③、④ 工場における労務管理
 【労務管理の変遷】 【労務の多様化】 【世界・日本・九州の労働市場の現状と将来】
- ⑤、⑥ 原価管理
 【原価管理の体系】 【原価構成・費目区分】 【開発段階での原価改善】
 【製造原価の把握と改善】
- ⑦、⑧ 品質管理
 【トヨタの品質管理】 【お客様指向】 【停めるライン、止まる機械】
 【自工程完結思想】 【トレーサビリティ】 【日常管理】 【変化点管理】
- ⑨ トヨタ生産方式の生まれた背景
 【トヨタの歴史】 【経営理念】 【トヨタ生産方式とは】 【トヨタ生産方式は展開が難しい】
- ⑩ トヨタ生産方式の基本的な手法
 【5S】 【職場の見える化】 【ムダの削減・排除】 【生産ラインの作り方】
- ⑪ トヨタ生産方式の具体的な改善の進め方
 【基本姿勢】 【改善の切り口】 【生産仕掛けの改善】 【人の動きの改善】 【物流改善】 【品質改善】
- ⑫ 新製品の生産準備
 【SE 活動】 【品質保証活動】 【生産準備活動】 【製造準備活動】
- ⑬ 生産技術・製造技術からのアプローチ
 【真似の出来ない技術】 【自社独自の設備や工程】
- ⑭ 人材育成と技能伝承
 【標準化と技能伝授】 【ワーキングライフプラン】
 【チームプレーという現場風土の伝承】
- ⑮ 製造現場のモチベーション管理
 【インセンティブ制度の功罪】 【公平な人事制度】

成績評価の方法 /Assessment Method
 課題についてのレポートで評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

モノづくり競争力の強化 【夜】

キーワード /Keywords

ソーシャル・ビジネス【夜】

担当者名 /Instructor 関 宣昭 / マネジメント研究科 専門職学位課程, 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、社会的課題をビジネスとして事業性を確保しながら解決しようとする「ソーシャルビジネス」への期待が高まっている。本講義では、まず経済社会におけるソーシャルビジネスの位置づけを整理したうえで、ソーシャルビジネスの現状を理解する。そのうえで、ソーシャルビジネスの現場のマネジメントに関する課題について学ぶ。具体的には、行政との連携、組織形態の選択、人材マネジメント、マーケティングなどの各テーマについて、事例やケースの分析を行う。さらに、実際にソーシャルビジネスを立ち上げ、運営していくことを想定した議論を行い、知識と実践的なマネジメント力を身につけることを目指す。

教科書 /Textbooks

講義は基本的に配布プリントにて行うが、必要に応じて参考文献を指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

谷本寛治編著『ソーシャル・エンタープライズ』中央経済社、2006年。
その他の文献については、講義のなかで紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①イントロダクション
【ソーシャルビジネスとは何か】
- ②日本におけるソーシャルビジネスの現状
【ソーシャルビジネスの現状、課題、育成策】
- ③ミッションをつくる 1
【社会的課題の抽出と発見の手法】
- ④ミッションをつくる 2
【社会的課題を解決するスキーム】
- ⑤事業をつくる 1
【ソーシャルビジネスの事業構造】
- ⑥事業をつくる 2
【ソーシャルビジネスにおけるビジネスモデルの特徴】
- ⑦中間プレゼンテーション 1
【ソーシャルビジネスプランの構築と発表】
- ⑧中間プレゼンテーション 2
【各自のプランの課題と解決方法を探る】
- ⑨利益をつくる 1
【ソーシャルビジネスの顧客と収入】
- ⑩利益をつくる 2
【ソーシャルビジネスの収益構造の特徴】
- ⑪チームをつくる 1
【ソーシャルビジネスを担う組織と人材マネジメント】
- ⑫チームをつくる 2
【ソーシャルビジネスを支える人的ネットワーク】
- ⑬社会をつくる 1
【ソーシャルビジネスからソーシャルイノベーションへ】
- ⑭社会をつくる 2
【社会をデザインする】
- ⑮ソーシャルビジネスプラン・プレゼンテーション
【プレゼンテーションとディスカッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への貢献度 (発言回数、発表内容、建設的な議論への寄与など) : 50%、課題の内容 (レポートなど) : 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

ソーシャル・ビジネス【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

医療経済【夜】

担当者名 /Instructor 舟谷 文男 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 医療は人間社会にとって必須の公共的社会サービスであり、社会保障制度の一つとして重要な役割を担っている。また、医学・医療技術は日進月歩の発展をみているが、その恩恵を、いつでも、誰でも、どこでも受けられる医療システムの仕組みはどのように構築すべきか、その社会コストを誰が支払うのか、人の命の価格は決められるのか、医療サービスを提供する専門職種や医療施設はどのような構造を持っているのか、経世済民の視点から、わが国の医療経済学の基本を幅広く理解させる。

教科書 /Textbooks
 プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 厚生労働省編『厚生白書』
 真野俊樹著『入門医療経済学』中公新書
 的場恒孝編『医療科学入門』南江堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 医療経済学序説
- ② 社会保障制度の中の医療
- ③ 医療需要構造
- ④ 医療サービスの選択 (需要・供給関係)
- ⑤ 医療サービスの値段 (診療報酬制度)
- ⑥ 医療提供構造と医療資源
- ⑦ 地域医療システム-I 地域・職域の保健・医療・福祉 (プライマリケア)
- ⑧ 地域医療システム-II 地域の医療計画
- ⑨ 医療制度改革に翻弄される勤務医
- ⑩ 医療保障と地域医療
- ⑪ 医療安全管理
- ⑫ 医療情報システムの構築と運用 (1)
- ⑬ 医療情報システムの構築と運用 (2)
- ⑭ 医療評価
- ⑮ 医療崩壊からの地域医療再生 ?

成績評価の方法 /Assessment Method
 課題レポートの評価 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会保障【夜】

担当者名 /Instructor 杉原 好則 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 わが国は、現在少子高齢化社会を迎え、社会保障の面において、大変困難な時代に遭遇しています。これから我々は、どのような時代を迎え、どのように生きていけばいいのかわ、みんなで考えていきたいと思っています。少子化、高齢化、年金、いじめ、虐待、貧困など問題が山積しています。現実社会で、発生している様々な事象を検証し、これからの進むべき方向について検討します。

教科書 /Textbooks
 OHP、VTR、パワーポイント等を使用し、プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 棕野美智子・田中耕太郎著『はじめての社会保障』有斐閣アルマ
 杉原好則監修『福祉サービスの質の向上を目指して』メディカルレビュー社
 河野正輝・中島誠・西田和広編『社会保障論』法律文化社
 久塚純一・山田省三編『社会保障法解体新書』法律文化社など。
 授業の進展に応じて適宜、新たに紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 毎回の講義は、1・2時限の連続講義(計180分)とする予定。8回分の内容は以下の通り。
 ①② 社会保障制度の歴史
 日本の社会保障制度がどのように作られてきたかを学ぶ
 【社会保障、世代間扶養、防貧、救貧】
 ③④ 公的扶助制度
 生活保護制度の問題点について学ぶ
 【公的扶助、生活保護、所得再分配、貧困対策】
 ⑤⑥ 高齢化社会【⑤】と介護保険【⑥】
 高齢化社会を迎え、高齢者の実態と介護保険制度について学ぶ
 【少子高齢化社会、介護保険、介護予防、介護サービス、要介護認定】
 ⑦⑧ 高齢者複合施設「ふれあいの里とばた」の見学実習
 高齢者施設の現場を見てこれからの高齢者施設の在り方について考える
 【高齢者複合施設、特別養護老人ホーム、ケアハウス、グループホーム、ショートステイ、デイサービス、高齢者施設の選び方】
 ⑨⑩ 障害者福祉【⑨】と障害者自立支援法【⑩】
 身体障害者、知的障害者、精神障害者の福祉について考える。
 【各種障害者の定義、各種障害者手帳、障害者福祉の歴史、障害者自立支援法】
 ⑪⑫ 児童福祉「いじめ【⑪】」、「虐待【⑫】」
 今学校では何が起きているのか？いじめと児童虐待の実態について考える
 【いじめとは、虐待とは、いじめ対応、虐待対応、児童虐待防止法】
 ⑬⑭ 福祉サービス第三者評価、福祉サービスにおけるリスクマネジメント
 福祉サービスにおける第三者評価について考える【⑬】
 福祉サービスにおけるリスクマネジメントについて考える【⑭】
 【福祉サービス第三者評価、福祉サービスリスクマネジメント】
 ⑮ 地域づくりまとめ
 【地域、地域づくり、孤独死、無縁社会】

成績評価の方法 /Assessment Method
 出題に対するレポート60%、ディスカッション30%、残り10%は授業への参加姿勢、授業中の意見発表などを総合的に判断する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会保障【夜】

キーワード /Keywords

自治体経営【夜】

担当者名 /Instructor 津 美裕 / NAGATU YOSHIHIRO / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
												○

授業の概要 /Course Description

「民間にできることは民間に」、「地方にできることは地方に」という基本的な考え方の下に推進された地方交付税改革等の「三位一体の改革」などにより、地方財政は大きな転機に直面した。さらに政権交代により「地域主権戦略大綱」の閣議決定、首長と議会の二元制のあり方を含む「地方自治法の抜本的な見直し」が、地方6団体などの意見を踏まえて、地方制度調査会などで検討が進められている。自治体経営においては、民間企業と同様にヒト、カネ、モノなどの資源を活用して、地域を効率的・効果的、かつ持続可能に経営していくことは変わらない。そのため自治体の人事・組織、税財政、資産などの仕組みなど公共セクターの特性を十分に理解したうえで、福祉・医療、都市計画など個別の政策分野を通して、自治体の経営戦略、ガバナンスの課題、方向等について検討する。

教科書 /Textbooks

授業の際に、必要に応じて資料を配布します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『地方財政論入門』(2009年) 佐藤主光 新世社
- 『新・地方分権の経済学』(2006年) 林宜嗣 日本評論社
- 『行政学(新版)』(2001年)『行政の活動』(2000年) 西尾勝 有斐閣
- 『ホーンブック 地方自治』(2011年) 磯崎初仁等 北樹出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 地方自治体を取り巻く社会・経済環境の変化
【少子・高齢化等、地域経済の停滞】
- ② 地方自治体の仕組み・組織・人事制度
【組織・権限、公務員倫理】
- ③ 地方分権改革などの動き
【地方分権、自治法の改正などの動き】
- ④ 課題発表、議論
【学生による意見交換、論議】
- ⑤ 議会
【議会の役割、課題】
- ⑥ 地方自治体の財政制度I
【国と地方財政制度の特色】
- ⑦ 地方自治体の財政II
【財政構造、一般会計・特別会計・企業会計など】
- ⑧ 地方自治体の財政III
【財政分析4表を読む】
- ⑨ 地方自治体の計画・行政評価
【基本構想など計画、行政評価】
- ⑩ 地方自治体の政策I
【保健・福祉・医療政策】
- ⑪ 地方自治体の政策II
【産業・地域経済振興、地域づくり・コミュニティ政策】
- ⑫ 地方自治体の政策III
【教育、都市計画】
- ⑬ 課題発表、議論
【学生による意見交換、論議】
- ⑭ 監査、住民訴訟など
【内部統制、コンプライアンス】
- ⑮ まとめ
【これからの自治体経営の課題】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート、課題に対するプレゼンテーション(70%)、授業の状況(質疑、意見、発表等30%)をもとに総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があれば、その都度連絡します。

自治体経営 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生の皆さんの活発な議論や質疑を期待します。

キーワード /Keywords

イノベーション・マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

「イノベーション」は幅広い概念であるが、本講義では、企業の新商品創出マネジメントに焦点をおき、新商品創出にまつわるイノベーション・マネジメントとMOT（技術経営）の基礎的な諸理論・枠組みを学ぶ。基礎的な諸理論の理解と実践力の向上のため、各講義回では、ミニ・ケースや雑誌・新聞記事を読み、あるいは映像を見て事例分析やケース・ディスカッションを行い、学習を進めることを基本とする。取り上げる事例は、主に製造業とその周辺を中心とした新商品創出にまつわる事例となる見込みである。また、イノベーションと密接に関連する創造性や、新商品創出にまつわる組織や人材の問題も扱うことを計画している。

教科書 /Textbooks

・ 講義で用いる事例や最低限の資料は配布予定である。（初学者は、参考文献にあげた教科書での自主的な学習を推奨する）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 近能善範・高井文子『イノベーション・マネジメント』新世社,2010.
- ・ 一橋大学イノベーション研究センター(編)『イノベーション・マネジメント入門』,日本経済新聞社,2001.
- ・ 延岡健太郎『MOT“技術経営”入門』日本経済新聞社,2006.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①イントロダクション
【イノベーション】【MOT】
- ②日本企業とイノベーション
【プロダクト・イノベーション】【プロセス・イノベーション】
- ③イノベーションと市場競争
【競争戦略】【組織能力】
- ④大企業とイノベーション
【連続的イノベーション】【破壊的イノベーション】
- ⑤イノベーションと企業間システム
【デファクトスタンダード】【オープンイノベーション】【モジュラー化】
- ⑥ビジネスモデルのイノベーション
【ビジネスモデル】
- ⑦イノベーションの基点
【情報の粘着性】【消費者行動】
- ⑧イノベーションと知識
【知識創造】【SECIモデル】
- ⑨イノベーションと組織(1)
【イノベーション・プロセス】【製品開発組織】【リーダーシップ】
- ⑩イノベーションと組織(2)
【組織文化】【組織風土】
- ⑪イノベーションと組織(3)
【個人の創造性】【創造性のマネジメント】
- ⑫イノベーションと組織(4)
【人材育成】【リーダーシップ開発】
- ⑬イノベーションとベンチャー
【ベンチャー】【中小企業】
- ⑭社会的イノベーション・システム
【場】【産業集積】【インキュベーション】
- ⑮まとめの討議

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート(60%)、講義への貢献度(発表、意見など40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

イノベーション・マネジメント【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎中国語【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
												○

授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話を身につけることを目標とする。先ず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、日文中訳と中文日訳等の練習を通じて、両国語の特徴に対する理解を深める。2学期の「ビジネス中国語」を学習するため基礎を固める。なお、将来中国語検定試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も紹介し、練習する。

教科書 /Textbooks

『比較中国語 [実用・基礎編] 』（王 占華 著、駿河台出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語学概論』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 中国語概説・単母音と声調
2. 子音と複母音
3. 鼻母音・音節と音便・教室用語
4. 発音の復習とまとめ
5. 「自己紹介」(判断文・疑問文 1・人称代名詞)
6. 復習と実用練習
7. 「空港で」(授受表現・存在表現・疑問文 2)
8. 復習と実用練習
9. 「両替」(願望表現・数字・場所)
10. 復習と実用練習
11. 「道を尋ねる」(方位表現・移動表現・禁止表現)
12. 復習と実用練習
13. 「乗り物に乗る」(動作の進行・状態の持続・動作の実現)
14. 「宿泊」(可能表現・時点・時量)
15. 復習と実用練習

[受講者の学習経験の有無と要望に応じて、テキストや授業内容又はスケジュールを調整することがある。その際にテキストの代わりにプリントを配布する。]

成績評価の方法 /Assessment Method

普段の練習 50%、期末試験 50% の割合で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、積極的な練習を望んでいる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

産学連携と事業創造【夜】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程, 丸田 秀一郎 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
											○	○

授業の概要 /Course Description

知識社会へのシフトによって、わが国では1990年代後半から大学や研究機関等の知的インフラの成果をいかに効果的にビジネスに結びつけるかが重要課題となっている。そのため、行政はこの10年ほど積極的に科学政策や産業政策を展開させて「産学連携」を押し進めている。しかしながら、その現場では各担い手の認識の不足やお互いのコミュニケーション不足によって多大な困難が生じており、順調に成果があがっているわけではない。よって、本講義では産学連携による新事業開発に焦点をあて、成果をあげるためのマネジメントについて事例を踏まえながら考察する。また、産学連携の成果の1つである知財の戦略についても検討する。
なお、⑨～⑫については、弁護士知財ネット九州・沖縄地域会から講師を招聘し、講義を実施する。

教科書 /Textbooks

適宜、プリントを配布

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○馬場靖憲 / 後藤晃 『産学連携の実証研究』 東京大学出版、玉井克哉
宮田由紀夫 『日本の産学連携』 玉川大学出版部
二神恭一 / 日置弘一郎 『クラスター組織の経営学』 中央経済社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①産学連携のバックグラウンド
【知識経済】 【コラボレーション】 【イノベーション】
- ②我が国の地域産業政策と科学政策の変遷
【技術移転】 【クラスター政策】
- ③産学連携支援組織の仕組みと活動内容
【TLO】 【産学連携支援組織】 【コーディネーター】 【行政の役割】
- ④産学連携支援組織の成果と課題
～北九州産業学術推進機構の事例から～
- ⑤企業における産学連携のスタンス
- ⑥産学連携による研究会の運営のポイント
- ⑦産学連携における開発ステージと新商品創出
- ⑧産学連携プロジェクトにおけるチームビルディング
- ⑨知的財産権の基礎【特許権】 【特許申請】
- ⑩共同研究開発契約のポイント
【秘密保持契約】 【基本契約】 【共同開発契約】 【職務発明規定】
- ⑪知的財産権における侵害対応【特許権】 【商標権】
- ⑫企業における知的財産権戦略 (ディスカッション)
～ケーススタディ：K B M社～
- ⑬産学連携プロジェクトの成果の事業化に向けた課題I
～ケーススタディ：K社～
- ⑭産学連携プロジェクトの成果の事業化に向けた課題II
【マーケティング】 【デスバレーの克服】 【事業化体制】 【事業創造】
- ⑮今後の産学連携プロジェクト (まとめと展望)
【成長産業戦略】 【スマート・グリッド】 【EV】 【事業創造】 【コラボレーション】

成績評価の方法 /Assessment Method

ケーススタディにおけるディスカッションの貢献度 (20%×2回=40%)、課題に対するレポート (60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

知的財産権に関連する講義を4コマ実施しますが、特に法律的な知識は求めません。ただし、イノベーションや商品開発 (事業創造) に対する基礎的な知識を習得していることが望ましいです。また、ポーターのクラスター論の習得をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

産学連携と事業創造 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

産学連携や知的財産など一般的にはとっつきにくいテーマを扱いますが、できる限りわかりやすく講義を行いますので気軽に受講してください。

キーワード /Keywords

コラボレーション、イノベーション、知的財産権、産学連携、チームビルディング、デスバレー、クラスター政策

ホスピタリティ・マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 小嶋 寿見子 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
											○	○

授業の概要 /Course Description

20年を超える日本経済の閉塞状況の中で、近年新しい動きとして、ホスピタリティ・ビジネスの強化が取り上げられている。しかしその実体は何かについては諸説がある。

本講義では、「ホスピタリティ」「サービス」「おもてなし」の同趣旨といわれるこれらの言葉をビジネス分野から検証しホスピタリティ・マネジメントの可能性を引き出したい。

①現況のサービス産業の枠を超えて他の業種にも取り込めるのか

②このグローバル化時代の輸出産業の拡大への一角を担えるか

を考え、特にアジアの時代と言われている今 北九州地域におけるホスピタリティ・ビジネスの現況と発展の可能性を事例調査、グループ討議等を通じて探る。

教科書 /Textbooks

講義時間にその都度プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

①② イントロダクション ホスピタリティ序説

【ホスピタリティ・サービス・おもてなし】

③④ サービス産業の現状と深化

⑤⑥ ゲストスピーカー

【サービス産業の最先端から】

⑦⑧ ホスピタリティ産業のもたらすもの

【サービス産業から物作りまで 経営のパラダイムシフト】

⑨⑩ ゲストスピーカー

【地域産業の現場からホスピタリティ産業に取り組む】

⑪⑫ 北九州におけるホスピタリティ マネジメント I

【グループ討議 ホスピタリティ マネジメントの現況】

⑬⑭ 北九州におけるホスピタリティ マネジメント II

【プレゼンテーション ホスピタリティ マネジメントの現況と解決策】

⑮ 総括

【ホスピタリティの可能性】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への貢献度 50%

プレゼンテーション、レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ホスピタリティ・マネジメント 【夜】

キーワード /Keywords

アジア型経営 【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
												○

授業の概要 /Course Description

本講義は昨年度から旧科目「中国企業論」の一部内容を組み換え、「アジア型経営」に名称変更して開講している。

日本における地域産業振興、空洞化の回避、経営国際化の促進をめぐる議論では、東アジア、中でも「中華圏」を抜きに語れなくなっており、「華人系要因」「中国要因」を媒介にした東アジア域内経済の一体化が急速に進んできた。こうした現実に鑑み、本講義は日本企業の対東アジアビジネス展開に役立つ現地企業の経営様式に関する体系的知識と分析視点の提供を試みている。前半においては儒教文化の影響下にあるNIES、ASEANの華人系企業に、後半に経営環境が激変する中国企業に焦点を絞り、それぞれの企業制度と経営システムの特徴、抱えている諸課題を取り上げると同時に、ユニークなビジネスモデルを有するケースを複数紹介する。最後に、東アジア系資本同士によるWin-win関係の構築の可能性をめぐってグループ討論する予定である。

教科書 /Textbooks

手作り資料を配布していく予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大橋英夫、丸山智雄『中国企業のルネサンス』岩波書店
 王効平、尹大栄、米山茂美『日中韓企業の経営比較』税務経理協会
 王効平『華人系資本の企業経営』日本経済評論社
 末廣昭『ファミリービジネス論』名古屋大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション：なぜ東アジアか？
【儒教資本主義】【開発独裁】【キャッチアップ型工業化】
- ② 儒教文化圏の財閥企業
【韓国財閥】【華人系財閥】
- ③ 東アジア財閥系企業の経営様式I
【統治構造】【優位性と脆弱性】【事業継承】
- ④ 東アジア財閥系企業の経営様式II
【経営の内部特性】【戦略立案】【組織特性】
- ⑤ 「ネットワーク重視型」とは
【生活文化と企業文化】【資本関係】【取引関係】
- ⑥ 中国企業統治の変遷、課題
【国家株主】【中国型統治？】【独立取締役】【外部統制】【内部統制】
- ⑦ 形成されつつある新経営システム
【経営システム】【環境適応理論】
- ⑧ 経営目標・経営戦略
【利益重視】【立案方法】
- ⑨ 経営組織と意思決定様式
【公式化】【複雑化】【集権化】
- ⑩ インセンティブ・システム
【業績主義】【年俸制】【ストックオプション】【経営者権市場】
- ⑪ 資金調達の実態
【国有銀行】【民間金融】【資本市場】
- ⑫ 中国企業ケースI：五星電器
【MBO】【企業文化】【SCM】
- ⑬ 中国企業ケースII：希望グループ
【民営企業家】【同族経営】
- ⑭ 総括I：中国企業は競争相手かパートナーか
【戦略的提携】【Win-win 関係】
- ⑮ 総括II：東アジア共同体の形成とアジアビジネス

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポートの提出状況・完成度 50%、討議参加の積極さ50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アジア型経営 【夜】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します

履修上の注意 /Remarks

- ◇ 「国際経営」との同時受講が望ましい
- ◇ 事前配布資料の予習をした上の受講が望ましい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

◇双方向のコミュニケーションを心掛けて進めたいので、積極的な発言、質疑を期待しています

キーワード /Keywords

公的プロジェクト・マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 片山 憲一 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
											○	○

授業の概要 /Course Description

都市経営を行う上で、投資資金が回収できない事業や運営経費は出ないが、社会的効果が高く取り組まなければならないプロジェクトがある。この講義では、そのような純民間では困難なプロジェクトを具体化する際の企画、整備、運営についてケーススタディを通して実践論を学ぶ。また、新たなプロジェクトに着手する際のマーケット分析や資金調達方法、マネジメント手法について勉強する。さらに、各プロジェクトの事前・事後評価手法について学ぶ。

教科書 /Textbooks

講義時間にその都度配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『道路の経済学』松下 文洋之著 (講談社現代新書)
- 『日本の交通ネットワーク』山重慎二編著 (中央経済社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①公的プロジェクトマネジメント科目の概観
【都市のインフラとは何か】この講座で取り扱う公的プロジェクト
- ②プロジェクト分類論
【社会的割引率等】20世紀型のプロジェクトから21世紀型へ
- ③公的プロジェクト企画論
【地域の活性化プロジェクトを企画する】需要予測の考え方
- ④プロジェクトの事前評価論
【マーケティングとB/C】「平尾台自然の郷」と「健康産業」
- ⑤公的プロジェクトの費用便益
【道路の費用分析】
- ⑥公的プロジェクトとソーシャルビジネス
【組織と広報】
- ⑦公的プロジェクト評価論
【ひびきコンテナターミナル評価と企業誘致効果】
- ⑧空港プロジェクトの例
【効率と質のバランス】スターフライヤー立ち上げ支援の例
- ⑨観光プロジェクトの例
【門司港レトロ事業等横串プロジェクト】
- ⑩街づくりプロジェクトとその活用
【マイタウンマイリバー】
- ⑪プロジェクトの実施手順
【実践と解説】到津の森公園ほか
- ⑫これからの公共プロジェクトとソーシャルビジネス
【環境、介護、育児プロジェクト】【買い物難民対策等】
- ⑬演習 1
【サッカー用新球技場プロジェクト】
- ⑭演習とまとめ
- ⑮課題試験の解説

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加 40% (積極的な発言30%、姿勢10%)
 レポート・プレゼンテーション 20%、
 期末試験 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

公的プロジェクト・マネジメント 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO / NGO実践論 【夜】

担当者名 /Instructor 奥田 知志 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year	2年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	2年					
対象入学年度 /Year of School Entrance			2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
													○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、NPOの果たす社会的役割をより現場に近い視点から検証する。また、今後の社会におけるNPOの可能性を模索しつつ、行政、企業、地域社会との社会的協働におけるNPOの果たす役割について考察する。
 一方日本においてはNPO法制定より10年に満たず、組織、資金の脆弱さと共にNPOの存在意義そのものが問われている。なぜ行政ではなく、また企業でもなく、さらに既存の公益法人ではなく、NPOが必要とされるのかを具体的な課題と向かい合う上で検証したい。また、NPOの運営についても検討する。

教科書 /Textbooks

授業ごとに資料を配布

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- ① 『ホームの回復』 明石書店
 - ② 『世界のNPO』 早稲田大学出版部
 - ③ 『NPOという生き方』 PHP新書
- その他授業にて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【NPOの現代的意義 - 草の根の視点から】
- ② NPO法およびNPOの現状について
【NPOとは何か】
- ③ NPOの視座-基盤としてのミッション
【使命の問題】
- ④ ボランティア論
【無償・有償ボランティア】
- ⑤ 協働論 1
【行政との協働】
- ⑥ 協働論 2
【企業との協働】
- ⑦ 協働論 3
【地域との協働】
- ⑧ NPOの実際 1
【北九州ホームレス支援機構の事例】
- ⑨ NPOの実際 2
【福祉NPOの事例】
- ⑩ NPOの実際 3
【環境NPOの事例】
- ⑪ NPOの運営について
【人材・組織・財政】
- ⑫ NPOビジネス論
【NPOとビジネス】
- ⑬ 海外のNPOの事例から 1
【アメリカの場合】
- ⑭ 海外のNPOの事例から 2
【ヨーロッパの場合】
- ⑮ まとめ
【NPOの可能性について】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業における発表(40%)およびレポート(60%)にて評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

NPO / NGO実践論 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループディスカッションI【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションIの第一義的な目的は、徹底した討議とコミュニケーションを深めることである。
 具体的には、各専任教員によるテーマ提供およびファシリテーションのもとで、グループ学習、グループ討議を繰り返し、各自の研究テーマの探索、発見を行う。そのうえで、最終的には各グループの担当の専任教員のもとで、成果としての研究プロポーザル（研究計画書）の作成・報告を行う。
 なお、授業運営はあらかじめ決められた小グループによって行う。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～⑨ 各専任教員のローテーションによる指導
【各専任教員の専門分野に応じたディスカッション】
- ⑩～⑭ 各グループ担当の専任教員による指導
【研究プロポーザル（研究計画書）の作成】
- ⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザル（研究計画書）に対して各グループの担当の専任教員が評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループディスカッションI【夜】

担当者名 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションIの第一義的な目的は、徹底した討議とコミュニケーションを深めることである。
具体的には、各専任教員によるテーマ提供およびファシリテーションのもとで、グループ学習、グループ討議を繰り返し、各自の研究テーマの探索、発見を行う。そのうえで、最終的には各グループの担当の専任教員のもとで、成果としての研究プロポーザル（研究計画書）の作成・報告を行う。
なお、授業運営はあらかじめ決められた小グループによって行う。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～⑨ 各専任教員のローテーションによる指導
【各専任教員の専門分野に応じたディスカッション】
- ⑩～⑭ 各グループ担当の専任教員による指導
【研究プロポーザル（研究計画書）の作成】
- ⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザル（研究計画書）に対して各グループの担当の専任教員が評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループディスカッションI【夜】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションIの第一義的な目的は、徹底した討議とコミュニケーションを深めることである。
具体的には、各専任教員によるテーマ提供およびファシリテーションのもとで、グループ学習、グループ討議を繰り返し、各自の研究テーマの探索、発見を行う。そのうえで、最終的には各グループの担当の専任教員のもとで、成果としての研究プロポーザル（研究計画書）の作成・報告を行う。
なお、授業運営はあらかじめ決められた小グループによって行う。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～⑨ 各専任教員のローテーションによる指導
【各専任教員の専門分野に応じたディスカッション】
- ⑩～⑭ 各グループ担当の専任教員による指導
【研究プロポーザル（研究計画書）の作成】
- ⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザル（研究計画書）に対して各グループの担当の専任教員が評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループディスカッションI【夜】

担当者名 /Instructor 越出 均 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションIの第一義的な目的は、徹底した討議とコミュニケーションを深めることである。
 具体的には、各専任教員によるテーマ提供およびファシリテーションのもとで、グループ学習、グループ討議を繰り返し、各自の研究テーマの探索、発見を行う。そのうえで、最終的には各グループの担当の専任教員のもとで、成果としての研究プロポーザル（研究計画書）の作成・報告を行う。
 なお、授業運営はあらかじめ決められた小グループによって行う。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～⑨ 各専任教員のローテーションによる指導
【各専任教員の専門分野に応じたディスカッション】
- ⑩～⑭ 各グループ担当の専任教員による指導
【研究プロポーザル（研究計画書）の作成】
- ⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザル（研究計画書）に対して各グループの担当の専任教員が評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループディスカッションI【夜】

担当者名 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションIの第一義的な目的は、徹底した討議とコミュニケーションを深めることである。
具体的には、各専任教員によるテーマ提供およびファシリテーションのもとで、グループ学習、グループ討議を繰り返し、各自の研究テーマの探索、発見を行う。そのうえで、最終的には各グループの担当の専任教員のもとで、成果としての研究プロポーザル（研究計画書）の作成・報告を行う。
なお、授業運営はあらかじめ決められた小グループによって行う。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～⑨ 各専任教員のローテーションによる指導
【各専任教員の専門分野に応じたディスカッション】
- ⑩～⑭ 各グループ担当の専任教員による指導
【研究プロポーザル（研究計画書）の作成】
- ⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザル（研究計画書）に対して各グループの担当の専任教員が評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループディスカッションI【夜】

担当者名 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションIの第一義的な目的は、徹底した討議とコミュニケーションを深めることである。
具体的には、各専任教員によるテーマ提供およびファシリテーションのもとで、グループ学習、グループ討議を繰り返し、各自の研究テーマの探索、発見を行う。そのうえで、最終的には各グループの担当の専任教員のもとで、成果としての研究プロポーザル（研究計画書）の作成・報告を行う。
なお、授業運営はあらかじめ決められた小グループによって行う。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～⑨ 各専任教員のローテーションによる指導
【各専任教員の専門分野に応じたディスカッション】
- ⑩～⑭ 各グループ担当の専任教員による指導
【研究プロポーザル（研究計画書）の作成】
- ⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザル（研究計画書）に対して各グループの担当の専任教員が評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループディスカッションI【夜】

担当者名 永津 美裕 / NAGATU YOSHIHIRO / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションIの第一義的な目的は、徹底した討議とコミュニケーションを深めることである。
具体的には、各専任教員によるテーマ提供およびファシリテーションのもとで、グループ学習、グループ討議を繰り返し、各自の研究テーマの探索、発見を行う。そのうえで、最終的には各グループの担当の専任教員のもとで、成果としての研究プロポーザル（研究計画書）の作成・報告を行う。
なお、授業運営はあらかじめ決められた小グループによって行う。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～⑨ 各専任教員のローテーションによる指導
【各専任教員の専門分野に応じたディスカッション】
- ⑩～⑭ 各グループ担当の専任教員による指導
【研究プロポーザル（研究計画書）の作成】
- ⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザル（研究計画書）に対して各グループの担当の専任教員が評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループディスカッションI【夜】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションIの第一義的な目的は、徹底した討議とコミュニケーションを深めることである。
 具体的には、各専任教員によるテーマ提供およびファシリテーションのもとで、グループ学習、グループ討議を繰り返し、各自の研究テーマの探索、発見を行う。そのうえで、最終的には各グループの担当の専任教員のもとで、成果としての研究プロポーザル（研究計画書）の作成・報告を行う。
 なお、授業運営はあらかじめ決められた小グループによって行う。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～⑨ 各専任教員のローテーションによる指導
【各専任教員の専門分野に応じたディスカッション】
- ⑩～⑭ 各グループ担当の専任教員による指導
【研究プロポーザル（研究計画書）の作成】
- ⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザル（研究計画書）に対して各グループの担当の専任教員が評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループディスカッションII 【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションIIは、2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられるものであり、研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法の習得を目的とする。

具体的には、グループごとに指導教員のもとで研究テーマを設定し、適切な思考・発想方法、分析手法を繰り返し検討する。これによって問題意識・問題の所在を明確化させる。そして、最終的にはグループ研究レポートの作成・報告を実施する。

なお、授業運営は小グループをベースとするが、グループ・ディスカッションIとは異なり、学生の研究テーマの特性や意思を尊重した小グループをあらたに編成して行う。また、各グループには各学生の研究テーマに相応しい専任教員が指導にあたる。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【各自の研究プロポーザル(研究計画書)の確認】
- ②～③ 課題討議 1
【研究テーマの抽出】
- ④～⑤ 課題討議 2
【ライブラリーリサーチ(文献調査)の実施・報告】
- ⑥～⑦ 課題討議 3
【仮説の設定】【思考方法の検討】、【発想方法の検討】
- ⑧～⑩ 課題討議 4
【分析手法の検討】【分析手法の実践】(統計分析、ヒアリング調査等)
- ⑪ 課題討議 5
【分析結果の検討】
- ⑫～⑭ グループ研究レポートの作成
【体系化スキル】、【プレゼンテーションスキル】
- ⑮ グループ研究レポートの発表
【研究科内発表会】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループ研究レポートの作成・発表に係る貢献度で評価する(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

グループ・ディスカッションIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループディスカッションII 【夜】

担当者名 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションIIは、2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられるものであり、研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法の習得を目的とする。

具体的には、グループごとに指導教員のもとで研究テーマを設定し、適切な思考・発想方法、分析手法を繰り返し検討する。これによって問題意識・問題の所在を明確化させる。そして、最終的にはグループ研究レポートの作成・報告を実施する。

なお、授業運営は小グループをベースとするが、グループ・ディスカッションIとは異なり、学生の研究テーマの特性や意思を尊重した小グループをあらたに編成して行う。また、各グループには各学生の研究テーマに相応しい専任教員が指導にあたる。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【各自の研究プロポーザル(研究計画書)の確認】
- ②～③ 課題討議1
【研究テーマの抽出】
- ④～⑤ 課題討議2
【ライブラリーリサーチ(文献調査)の実施・報告】
- ⑥～⑦ 課題討議3
【仮説の設定】【思考方法の検討】、【発想方法の検討】
- ⑧～⑩ 課題討議4
【分析手法の検討】【分析手法の実践】(統計分析、ヒアリング調査等)
- ⑪ 課題討議5
【分析結果の検討】
- ⑫～⑭ グループ研究レポートの作成
【体系化スキル】、【プレゼンテーションスキル】
- ⑮ グループ研究レポートの発表
【研究科内発表会】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループ研究レポートの作成・発表に係る貢献度で評価する(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

グループ・ディスカッションIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループディスカッションII 【夜】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションIIは、2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられるものであり、研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法の習得を目的とする。

具体的には、グループごとに指導教員のもとで研究テーマを設定し、適切な思考・発想方法、分析手法を繰り返し検討する。これによって問題意識・問題の所在を明確化させる。そして、最終的にはグループ研究レポートの作成・報告を実施する。

なお、授業運営は小グループをベースとするが、グループ・ディスカッションIとは異なり、学生の研究テーマの特性や意思を尊重した小グループをあらたに編成して行う。また、各グループには各学生の研究テーマに相応しい専任教員が指導にあたる。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【各自の研究プロポーザル(研究計画書)の確認】
- ②~③ 課題討議 1
【研究テーマの抽出】
- ④~⑤ 課題討議 2
【ライブラリーリサーチ(文献調査)の実施・報告】
- ⑥~⑦ 課題討議 3
【仮説の設定】【思考方法の検討】、【発想方法の検討】
- ⑧~⑩ 課題討議 4
【分析手法の検討】【分析手法の実践】(統計分析、ヒアリング調査等)
- ⑪ 課題討議 5
【分析結果の検討】
- ⑫~⑭ グループ研究レポートの作成
【体系化スキル】、【プレゼンテーションスキル】
- ⑮ グループ研究レポートの発表
【研究科内発表会】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループ研究レポートの作成・発表に係る貢献度で評価する(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

グループ・ディスカッションIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループディスカッションII 【夜】

担当者名 越出 均 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションIIは、2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられるものであり、研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法の習得を目的とする。

具体的には、グループごとに指導教員のもとで研究テーマを設定し、適切な思考・発想方法、分析手法を繰り返し検討する。これによって問題意識・問題の所在を明確化させる。そして、最終的にはグループ研究レポートの作成・報告を実施する。

なお、授業運営は小グループをベースとするが、グループ・ディスカッションIとは異なり、学生の研究テーマの特性や意思を尊重した小グループをあらたに編成して行う。また、各グループには各学生の研究テーマに相応しい専任教員が指導にあたる。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【各自の研究プロポーザル(研究計画書)の確認】
- ②～③ 課題討議 1
【研究テーマの抽出】
- ④～⑤ 課題討議 2
【ライブラリーリサーチ(文献調査)の実施・報告】
- ⑥～⑦ 課題討議 3
【仮説の設定】【思考方法の検討】、【発想方法の検討】
- ⑧～⑩ 課題討議 4
【分析手法の検討】【分析手法の実践】(統計分析、ヒアリング調査等)
- ⑪ 課題討議 5
【分析結果の検討】
- ⑫～⑭ グループ研究レポートの作成
【体系化スキル】、【プレゼンテーションスキル】
- ⑮ グループ研究レポートの発表
【研究科内発表会】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループ研究レポートの作成・発表に係る貢献度で評価する(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

グループ・ディスカッションIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループディスカッションII 【夜】

担当者名 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションIIは、2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられるものであり、研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法の習得を目的とする。

具体的には、グループごとに指導教員のもとで研究テーマを設定し、適切な思考・発想方法、分析手法を繰り返し検討する。これによって問題意識・問題の所在を明確化させる。そして、最終的にはグループ研究レポートの作成・報告を実施する。

なお、授業運営は小グループをベースとするが、グループ・ディスカッションIとは異なり、学生の研究テーマの特性や意思を尊重した小グループをあらたに編成して行う。また、各グループには各学生の研究テーマに相応しい専任教員が指導にあたる。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【各自の研究プロポーザル(研究計画書)の確認】
- ②～③ 課題討議 1
【研究テーマの抽出】
- ④～⑤ 課題討議 2
【ライブラリーリサーチ(文献調査)の実施・報告】
- ⑥～⑦ 課題討議 3
【仮説の設定】【思考方法の検討】、【発想方法の検討】
- ⑧～⑩ 課題討議 4
【分析手法の検討】【分析手法の実践】(統計分析、ヒアリング調査等)
- ⑪ 課題討議 5
【分析結果の検討】
- ⑫～⑭ グループ研究レポートの作成
【体系化スキル】、【プレゼンテーションスキル】
- ⑮ グループ研究レポートの発表
【研究科内発表会】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループ研究レポートの作成・発表に係る貢献度で評価する(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

グループ・ディスカッションIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループディスカッションII 【夜】

担当者名 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションIIは、2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられるものであり、研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法の習得を目的とする。

具体的には、グループごとに指導教員のもとで研究テーマを設定し、適切な思考・発想方法、分析手法を繰り返し検討する。これによって問題意識・問題の所在を明確化させる。そして、最終的にはグループ研究レポートの作成・報告を実施する。

なお、授業運営は小グループをベースとするが、グループ・ディスカッションIとは異なり、学生の研究テーマの特性や意思を尊重した小グループをあらたに編成して行う。また、各グループには各学生の研究テーマに相応しい専任教員が指導にあたる。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【各自の研究プロポーザル(研究計画書)の確認】
- ②～③ 課題討議1
【研究テーマの抽出】
- ④～⑤ 課題討議2
【ライブラリーリサーチ(文献調査)の実施・報告】
- ⑥～⑦ 課題討議3
【仮説の設定】【思考方法の検討】、【発想方法の検討】
- ⑧～⑩ 課題討議4
【分析手法の検討】【分析手法の実践】(統計分析、ヒアリング調査等)
- ⑪ 課題討議5
【分析結果の検討】
- ⑫～⑭ グループ研究レポートの作成
【体系化スキル】、【プレゼンテーションスキル】
- ⑮ グループ研究レポートの発表
【研究科内発表会】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループ研究レポートの作成・発表に係る貢献度で評価する(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

グループ・ディスカッションIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループディスカッションII 【夜】

担当者名 永津 美裕 / NAGATU YOSHIHIRO / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションIIは、2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられるものであり、研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法の習得を目的とする。

具体的には、グループごとに指導教員のもとで研究テーマを設定し、適切な思考・発想方法、分析手法を繰り返し検討する。これによって問題意識・問題の所在を明確化させる。そして、最終的にはグループ研究レポートの作成・報告を実施する。

なお、授業運営は小グループをベースとするが、グループ・ディスカッションIとは異なり、学生の研究テーマの特性や意思を尊重した小グループをあらたに編成して行う。また、各グループには各学生の研究テーマに相応しい専任教員が指導にあたる。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【各自の研究プロポーザル(研究計画書)の確認】
- ②~③ 課題討議 1
【研究テーマの抽出】
- ④~⑤ 課題討議 2
【ライブラリーリサーチ(文献調査)の実施・報告】
- ⑥~⑦ 課題討議 3
【仮説の設定】【思考方法の検討】、【発想方法の検討】
- ⑧~⑩ 課題討議 4
【分析手法の検討】【分析手法の実践】(統計分析、ヒアリング調査等)
- ⑪ 課題討議 5
【分析結果の検討】
- ⑫~⑭ グループ研究レポートの作成
【体系化スキル】、【プレゼンテーションスキル】
- ⑮ グループ研究レポートの発表
【研究科内発表会】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループ研究レポートの作成・発表に係る貢献度で評価する(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

グループ・ディスカッションIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループディスカッションII 【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションIIは、2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられるものであり、研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法の習得を目的とする。

具体的には、グループごとに指導教員のもとで研究テーマを設定し、適切な思考・発想方法、分析手法を繰り返し検討する。これによって問題意識・問題の所在を明確化させる。そして、最終的にはグループ研究レポートの作成・報告を実施する。

なお、授業運営は小グループをベースとするが、グループ・ディスカッションIとは異なり、学生の研究テーマの特性や意思を尊重した小グループをあらたに編成して行う。また、各グループには各学生の研究テーマに相応しい専任教員が指導にあたる。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【各自の研究プロポーザル(研究計画書)の確認】
- ②～③ 課題討議 1
【研究テーマの抽出】
- ④～⑤ 課題討議 2
【ライブラリーリサーチ(文献調査)の実施・報告】
- ⑥～⑦ 課題討議 3
【仮説の設定】【思考方法の検討】、【発想方法の検討】
- ⑧～⑩ 課題討議 4
【分析手法の検討】【分析手法の実践】(統計分析、ヒアリング調査等)
- ⑪ 課題討議 5
【分析結果の検討】
- ⑫～⑭ グループ研究レポートの作成
【体系化スキル】、【プレゼンテーションスキル】
- ⑮ グループ研究レポートの発表
【研究科内発表会】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループ研究レポートの作成・発表に係る貢献度で評価する(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

グループ・ディスカッションIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループディスカッションII 【夜】

担当者名 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションIIは、2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられるものであり、研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法の習得を目的とする。

具体的には、グループごとに指導教員のもとで研究テーマを設定し、適切な思考・発想方法、分析手法を繰り返し検討する。これによって問題意識・問題の所在を明確化させる。そして、最終的にはグループ研究レポートの作成・報告を実施する。

なお、授業運営は小グループをベースとするが、グループ・ディスカッションIとは異なり、学生の研究テーマの特性や意思を尊重した小グループをあらたに編成して行う。また、各グループには各学生の研究テーマに相応しい専任教員が指導にあたる。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【各自の研究プロポーザル(研究計画書)の確認】
- ②～③ 課題討議 1
【研究テーマの抽出】
- ④～⑤ 課題討議 2
【ライブラリーリサーチ(文献調査)の実施・報告】
- ⑥～⑦ 課題討議 3
【仮説の設定】【思考方法の検討】、【発想方法の検討】
- ⑧～⑩ 課題討議 4
【分析手法の検討】【分析手法の実践】(統計分析、ヒアリング調査等)
- ⑪ 課題討議 5
【分析結果の検討】
- ⑫～⑭ グループ研究レポートの作成
【体系化スキル】、【プレゼンテーションスキル】
- ⑮ グループ研究レポートの発表
【研究科内発表会】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループ研究レポートの作成・発表に係る貢献度で評価する(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

グループ・ディスカッションIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行なえるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員および特任教員の中から2名以内とし、その選定は主指導教員と学生の相談の上で決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮設の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 林 秀美 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行なえるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員および特任教員の中から2名以内とし、その選定は主指導教員と学生の相談の上で決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮設の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 丸田 秀一郎 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行なえるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員および特任教員の中から2名以内とし、その選定は主指導教員と学生の相談の上で決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮設の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I 【夜】

担当者名
/Instructor

城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

演習

クラス 2年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行なえるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員および特任教員の中から2名以内とし、その選定は主指導教員と学生の相談の上で決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮設の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40％）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60％）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 越出 均 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行なえるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員および特任教員の中から2名以内とし、その選定は主指導教員と学生の相談の上で決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮設の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40％）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60％）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I 【夜】

担当者名 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行なえるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員および特任教員の中から2名以内とし、その選定は主指導教員と学生の相談の上で決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮設の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40％）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60％）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行なえるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員および特任教員の中から2名以内とし、その選定は主指導教員と学生の相談の上で決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮設の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40％）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60％）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 永津 美裕 / NAGATU YOSHIHIRO / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行なえるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員および特任教員の中から2名以内とし、その選定は主指導教員と学生の相談の上で決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮設の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I 【夜】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行なえるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員および特任教員の中から2名以内とし、その選定は主指導教員と学生の相談の上で決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮設の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II 【夜】

担当者名 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。なお、仮設の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II 【夜】

担当者名 林 秀美 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。なお、仮設の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮設の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 丸田 秀一郎 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。なお、仮設の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II 【夜】

担当者名
/Instructor

城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

演習

クラス 2年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。なお、仮設の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 越出 均 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。なお、仮設の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II 【夜】

担当者名 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。なお、仮設の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II 【夜】

担当者名 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。なお、仮設の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 永津 美裕 / NAGATU YOSHIHIRO / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。なお、仮設の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。なお、仮設の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II 【夜】

担当者名 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。なお、仮設の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マネジメント総論【夜】

担当者名 齋藤 貞之 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

マネジメントは、営利組織であれ非営利組織であれ、その基本原理は共通しており、違いは10パーセントほどに過ぎないといわれている(ドラッカー)。この講義の目的は、マネジメントに関する基本的考え方、哲学をディベートを中心に体得するとともに、マネジメントに携わるプロフェッショナルとしての職業倫理を習得することにある。

なぜ、現代はマネジメントの時代と呼ばれるのか、マネジメントの果たす社会的役割・機能の理解を通して、その現代的意義を明らかにする。このマネジメントに関するマクロ的理解を踏まえて、組織が目的を有効に達成するマネジメントの最適原理とは何か、を理論と実証分析を通して理解を深める。後半は、経済社会のグローバル化、IT化の進展に伴うマネジメント哲学の変化について明らかにする。

教科書 /Textbooks

その都度、指定

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ジョアン・マグレッタ『なぜマネジメントなのか』(ソフトバンク・パブリッシング社、2003年)
P・ドラッカー『ネクスト・ソサエティ』(ダイヤモンド社、2002年)
T・R・バイパー他『ハーバードで教える企業倫理』(生産性出版、1995年)
梅津光弘『ビジネスの倫理学』(丸善株、2208年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① マネジメントとは何か(1)：営利組織と非営利組織のマネジメント
【“effectiveness”と“efficiency”】
- ② マネジメントとは何か(2)
【経験と科学】
- ③ 企業(組織)はだれのものか(1)
【組織の制度化、ドラッカー】
- ④ 企業(組織)はだれのものか(2)
【コーポレート・ガバナンス】
- ⑤ コーポレート・シチズンシップとCSR
【CSR、企業の社会貢献】
- ⑥ 企業倫理
【社会的機関としての企業、ビジネス倫理】
- ⑦ イノベーションと価値創造
【創造的破壊】
- ⑧ 日本型経営とは何か
【日本とアメリカ：収斂と分散】
- ⑨ 日本型経営とは何か
【成果主義】
- ⑩ リーダーに学ぶ(1)：ジャック・ウェルチのケース
【価値共有】
- ⑪ リーダーに学ぶ(2)：カルロス・ゴーンのケース
【コーチング】
- ⑫ IT革命とマネジメント(1)
【知識社会】
- ⑬ IT革命とマネジメント(2)
【距離の死、時間の死】
- ⑭ 経営者の資質とは
【インテグリティ】
- ⑮ 討議とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

各テーマについてのディスカッションへの参加度・貢献度を6割、レポートの内容を4割として評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

マネジメント総論 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営戦略【夜】

担当者名 /Instructor 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経営戦略の理論と技法，その応用分析を中心的な内容とした講義を行う。理論とデータ加工によって，分析的に思考するスキルを高めながら戦略的思考力を高めることが本講義の目的である。本講義の到達目標は，経営戦略に関する基本的な理論や考え方を習得し，それらを用いて自分なりの視点から経営戦略を策定することができるようになることである。なお，講義の前半に事業戦略を，後半に全社戦略を扱う。授業は，講義を基本とするが，事前に戦略分析に関する小レポートなどを提出してもらい，受講生と討議する時間を設ける予定である。

教科書 /Textbooks

特に，指定せず，適宜資料を配布する。
(なお，ケースを用いる場合，そのケース代金(1冊千数百円)が追加的に必要になる場合があるので注意されたい)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

奥村昭博『経営戦略』日経文庫
石井淳蔵・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎『経営戦略論(新版)』有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①オリエンテーション
 - ②戦略とは何か?【定義，戦略的な思考法】
 - ③戦略とは何か?【戦略の担い手，ドメイン】
 - ④事業戦略(業界の構造分析)【Five-Forces:全体像，既存企業間の対抗度】
 - ⑤事業戦略(業界の構造分析)【新規参入の脅威，売り手と買い手の交渉力】
 - ⑥事業戦略(業界の構造分析)【代替品の脅威，まとめ】
 - ⑦事業戦略(ゲーム論的な考え方)【価値相関図】
 - ⑧事業戦略(ゲーム論的な考え方)【戦略的行動】
 - ⑨事業戦略(企業の内部分析)【価値連鎖，活動マップ，RBV】
 - ⑩事業戦略(企業の内部分析)【学習アプローチ】
 - ⑪全社戦略(垂直統合)【取引コスト】
 - ⑫全社戦略(多角化の論理と種類)【多角化のタイプ】
 - ⑬全社戦略(PPMとその応用)【PPM】
 - ⑭全社戦略(戦略と組織)【組織は戦略に従う】
 - ⑮まとめ
- なお，授業の内容は，進捗状況や受講生の興味等に応じて，変更する可能性がある

成績評価の方法 /Assessment Method

発言など授業への寄与度30%、小レポート30%、期末レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経営に関する知識があることが好ましいが，前提とはしない。
予習や復習には，かなりの時間が必要となる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マーケティング【夜】

担当者名 /Instructor 米谷 雅之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

如何に優れた商品やサービスを産み出したとしても、それが市場で販売され、収益の向上につながらなければ、企業にとっては意味がないし、そのような状態が続けば命取りにもなりかねない。販売の過程が商品の「命懸けでの飛躍の過程」と呼ばれるのはそのためであり、それまでの企業の様々な活動は販売の過程で最後の審判を受けることになる。売れるしぐみを如何に創り出していか、まさにマーケティングに軸足を置いた経営が求められることになる。この講義は、ベーシック科目として、マーケティングの基本的な問題を理解することを目的に、受講者による報告や討論をも混じえながら進められる。

教科書 /Textbooks

講義資料を配布して進める予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

石井淳蔵 (2010年) 『マーケティングを学ぶ』 (ちくま新書) 筑摩書房
 石井・栗木・嶋口・余田 (2004年) 『ゼミナール マーケティング入門』 日本経済新聞社
 米谷雅之 (2002年) 『現代製品戦略論』 千倉書房 等。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① オリエンテーション：講義の概要・講義の進め方など
 【企業活動とマーケティング】
- ② マーケティング問題の基本認識
 【現代市場、販売の困難、マーケティングの目的】
- ③ マーケティング志向の経営
 【Product-Out vs. Market-In、技術志向とマーケティング志向】
- ④ マーケティングの理論的展開
 【企業と市場、マーケティング相互行為、マーケティング・マネジメント】
- ⑤ マーケティング戦略の展開 (1)
 【企業の競争対応・流通対応・市場対応、マーケティング・ミックス】
- ⑥ マーケティング戦略の展開 (2)
 【戦略的マーケティング、製品ポートフォリオ、競争地位別戦略】
- ⑦ 製品戦略と新製品の開発
 【製品マネジメント、新製品開発、製品差別化と市場細分化、知覚マップ】
- ⑧ 製品ライフサイクルの戦略的意義
 【製品ライフサイクル、イノベーションの伝播、製品階層】
- ⑨ 価格戦略と販促 (広告) 戦略
 【需要の価格弾力性、プロモーション・ミックス】
- ⑩ チャンネル・マネジメント (1)
 【流通の種類、商業組織とマーケティング、VMS、流通系列化】
- ⑪ チャンネル・マネジメント (2)
 【チャンネル管理、チャンネル政策の種類、パワー基盤、サプライチェーン】
- ⑫ 顧客関係の構築
 【顧客関係、顧客満足、関係性マーケティング】
- ⑬ ブランドの構築と維持
 【ブランドの機能、ブランド構築、ブランド・エクイティ、ブランド・マネジャー】
- ⑭ マーケティングの進化と拡張
 【マーケティングの拡張、サービス・マーケティング】
- ⑮ 討議とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業へのコミット度 (授業への参加姿勢や参加度) や課題レポート等を 5 割、期末試験 (ないし期末レポート) の成績を 5 割、を目安に総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

マーケティング【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アカウンティング【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アカウンティングはビジネスの世界の共通言語である。本講座にあつてはビジネススクールの履修者に期待される水準の財務会計の基礎知識を学ぶ機会が提供される。まずは大学における財務諸表論と重なりあふ論点を確認してゆくが、その後は財務諸表分析、さらには企業のディスクロージャー戦略にまで考察を加えてゆく。講義コンテンツは、英文会計用語のリテラシーがある程度まで得られるよう、デザインされている。

教科書 /Textbooks

『Accounting～IFRS水準の企業開示を理解するための諸論点～』（第5版、2012年3月刷）
（初回の教室にて無償配布）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ロバート・アンソニー / レスリー・パールマン著 西山茂監訳 (2007年) 『アンソニー会计学入門』 東洋経済新報社 (但し購入は任意)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

主として以下のコンテンツを、各々モジュールとして積み上げて行く (但し、プレゼンテーションの時間をとる等の事情により、講義順は大きく変わることがある)。

①オリエンテーション：本講座の領域と目的、課題について。

【オリエンテーション】

②企業とアカウンティング：会計の役割と職能について。

【会計の役割と職能】

③GAAP とは何か：US-SFAS とIFRS について。

【GAAP】

④バランスシートの機能について。

【B/S】

⑤P/L の機能について。

【P/L】

⑥キャッシュフロー計算書の作成方法とその機能について。

【キャッシュフロー】

⑦簿記とアカウンティング・サイクルの一巡について。

【アカウンティング・サイクル】

⑧決算修正：アクルール処理とその会計倫理上の限界について。

【アクルール】

⑨ディスクロージャー：脚注情報とMD&A について。

【ディスクロージャー】

⑩情報信頼性の担保方法：監査報告書について。

【監査】

⑪財務諸表分析の基礎的アプローチ方法について。

【財務諸表分析】

⑫年次報告とIR について。

【アニュアルレポート】

⑬隣接領域と意思決定会計への展望について。

【意思決定】

⑭MBA アカウンティングのWrap-Up.

【MBA】

⑮アドバンスド財務会計への展望

【財務会計】

...以上のモジュールを、受講者の意欲とニーズを量りつつ、ウェイト配分を微調整しながら講義する。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポートそのものの質 (15%程度)、プレゼンテーションの積極性やディスカッションに際しての貢献度 (15%程度)、期末試験の成績 (70%程度)、を適宜ウェイト付けし、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学部生が学ぶ簿記論の授業等とはアプローチが全く異なるので、特に簿記会計の知識経験がなくとも、授業内容は十分に理解できます。その他、必要なことはその都度、教室にて事前に連絡します。

アカウンティング【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ファイナンス【夜】

担当者名 /Instructor 内田 交謹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

第1回～第6回では、コーポレート・ファイナンスの基礎知識と財務諸表、財務指標、投資尺度の見方を説明する。第7回から本格的なファイナンスの内容となるが、第13回までは企業の最適な財務的意思決定を考える上で重要な概念となる企業価値評価、資本コストの考え方を説明し、実際に企業の資本コストや理論株価を推計する練習を行う。第14、15回で、それまでに学んだ考え方の応用として、企業の投資決定のあり方を解説し、企業の財務的意思決定へのまとめにつなげる。頻繁に演習(練習問題及びケース・スタディ)を行い、「基礎的な考え方の理解→実践」のプロセスを繰り返すことになる。なお、企業の最適な資本構成・配当政策については、第6回までの間に適宜触れることとする。

教科書 /Textbooks

内田交謹『コーポレート・ファイナンス 改訂版』創成社、2009年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 企業の財務行動
 - 【投資決定】【資本構成】【配当政策】【株価】
- ② 財務活動と財務諸表、投資尺度
 - 【ROA】【ROE】【PER】【PBR】
- ③ 資金調達の基本知識1
 - 【新株発行】【内部留保】
- ④ 資金調達の基本知識2
 - 【転換社債・ワラント債】【最適資本構成】
- ⑤ 株主還元の基本知識
 - 【配当性向】【配当利回り】【自社株買い戻し】【株式分割】【最適配当政策】
- ⑥ まとめ
- ⑦ 現在価値計算
 - 【現在価値】【割引率】
- ⑧ 株価・債券価格決定の基本理論1
 - 【債券価格】
- ⑨ 株価・債券価格決定の基本理論1
 - 【株価】【DDM】【DCF】
- ⑩ 資本コスト1
 - 【自己資本コスト】【負債資本コスト】【WACC】
- ⑪ 資本コスト2
 - 【企業価値評価】【EVA】
- ⑫ 資本コスト3
 - 【CAPM】
- ⑬ まとめ
- ⑭ 投資決定
 - 【NPV】【内部収益率法】
- ⑮ まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素のクラスへの貢献度(発言・質問等) 40%
課題の提出 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

ファイナンス【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人材マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、企業におけるヒトに対するマネジメントに関する諸問題について、その諸制度および企業組織管理との関連において考察する。組織において、優秀な人材を確保し、人材の能力を引き出し、それを発揮させるための仕組みが人的資源管理である。人という経営資源は、物や金とは違った性質をもつがゆえに、管理が非常に難しくデリケートな経営資源である。本講義ではとりわけ日本の大企業における人的資源管理について、学術的な理論をベースにしながらも現実の企業における事例も紹介しながら講述する。適宜、受講者が自発的に考えるための時間も設けたい。

教科書 /Textbooks

上林憲雄・奥林康司・平野光俊編(2010)『入門・人的資源管理』中央経済社。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜リーディングスを配布するが、それを必ず事前に読んでくることが求められる。
また、その他の参考図書として以下を挙げておく。
上林ほか(2010)は上記テキストと似ているが、やや記述内容に差異がある。白木・梅澤(2011)は経済学ベースであり、本講義で扱う内容を内部労働市場論の観点からとらえる新しいテキストである。
上林憲雄・森田雅也・厨子直之(2010)『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣。
白木三秀・梅澤隆(2011)『人的資源管理の基本』文眞堂。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①オリエンテーション、人事管理論へのプロローグ、企業経営と人的資源管理【企業経営】【人的資源】
- ②組織のなかの人間行動【モチベーション】【リーダーシップ】
- ③職務と組織の設計【分業】【調整】
- ④人事等級制度【職能資格制度】【職務等級制度】【役割等級制度】
- ⑤雇用管理【終身雇用】【雇用の流動化】【非正規従業員】【雇用ポートフォリオ】
- ⑥キャリア開発と人材育成【キャリア】【OJT】
- ⑦人事考課と賃金制度【人事考課】【年功序列型賃金】【成果主義】
- ⑧多様な労働者タイプの管理【女性労働者】【高齢労働者】【R&D 技術者】
- ⑨多様な勤務形態のあり方について【裁量労働制】【テレワーク】【SOHO】
- ⑩人事制度についての事例紹介(1)
- ⑪人事制度についての事例紹介(2)
- ⑫人事制度についての事例紹介(3)
- ⑬人事制度についての事例紹介(4)
- ⑭講義全体のまとめ

上記の事例紹介の一部については実務者による講演を行なう予定である。また、基本的には上記内容を網羅したいと考えているが、講義の進捗に応じて詳述する箇所と簡略化する箇所があるかもしれないことを予め断っておく。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート(複数回課す予定).....50%、期末テスト.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回で配布するリーディングスを事前に読み予習していただくことが求められる。
その他の準備事項がある場合は、必要に応じてその都度連絡する。

履修上の注意 /Remarks

1学期に受講したマネジメント系科目の理解を前提として講義を進めたいので、経営学の入門的知識の習得を本講義開始までに終えておくことが肝要であると考えてほしい。ただし、講義中にもこれらの復習は適宜行なう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門職大学院での講義であるから、教養として人材マネジメントを学ぶことにとどまらず、各自の修士論文も視野に入れた内容を織り込んでいきたい。
もし必要であれば、個人別にテーマ設定などの相談に応じることも可能である。

人材マネジメント 【夜】

キーワード /Keywords

人材マネジメント、人的資源管理、組織行動、労使関係

組織とリーダーシップ【夜】

担当者名 /Instructor 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、組織とリーダーシップにまつわる学問分野である組織行動論と組織論、組織デザイン論の視点から、基礎的な理論・枠組みとその応用方法を学ぶ。企業での応用・実践を重視するため、各講義回では、ミニケースや雑誌・新聞記事、映像事例をもとに事例分析・事例討議を行うことで、基礎的な理論や枠組みの理解を深め、応用方法を学ぶことを基本とする。

教科書 /Textbooks

- ・ロビンズ著,高木晴夫監訳『組織行動のマネジメント(新版)』ダイヤモンド社,2009.
- ・その他、各種事例・講義資料等を配布予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・金井壽宏『経営組織』日経文庫,1999.
- ・金井壽宏『リーダーシップ入門』日経文庫,2005.
- ・沼上幹『組織デザイン』日経文庫,2004.
- ・野田稔『組織論再入門』ダイヤモンド社,2005.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①イントロダクション
【組織と仕事】【科学的管理法】【人間関係論】
- ②モチベーション①
【内容説】【欲求階層説】【二要因説】
- ③モチベーション②
【期待理論】【目標設定理論】
- ④個人の視点
【性格特性】【組織・職務適合】
- ⑤グループダイナミクス
【グループ】【チーム】
- ⑥リーダーシップ①
【偉人説】【基本二次元】
- ⑦リーダーシップ②
【変革型リーダーシップ】
- ⑧リーダーシップ③
【リーダーシップ開発】【リーダー育成】
- ⑨組織のデザイン①
【機能別組織】【事業部制組織】
- ⑩組織のデザイン②
【近未来型組織】
- ⑪組織文化・組織風土
【組織文化】【組織風土】
- ⑫組織のコントロール
【コントロール理論】
- ⑬組織のイノベーション
【組織変革】【変革プロセス】
- ⑭組織のダウンサイド
【ストレスマネジメント】
- ⑮まとめの討議

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート (60%)、講義への貢献度 (発表、意見など40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

組織とリーダーシップ【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords